

坂出市
地域福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書

令和 6 年 1 0 月

坂出市

目次

I	調査概要	1
1	調査結果	1
2	調査の実施について	1
3	調査票の回収状況	1
4	留意点	1
II	調査結果	2
問1	あなた「ご自身のこと」について	2
1	性別について	2
2	年齢について	2
3	世帯構成について	3
問2	あなたの現在の「お住まい」について	4
1	お住まいについて	4
2	お住まいの地区について	4
3	お住まいの期間について	5
問3	あなたの現在の「お仕事」について	6
1	お仕事について	6
2	勤務地について	6
問4	あなたの日頃の「暮らし」について	7
1	暮らし全般について	7
2	生活の中での喜びや生きがいについて	7
3	外出の機会について	8
3-1	どのくらいの頻度か	8
3-2	主にどこに出かけるか	9
4	買い物や通院時の主な移動手段について	10
5	学校・職場や自宅以外の場所（居場所）があるかについて	11
5-1	どのような居場所かについて	11
6	居場所が欲しいと思うかについて	12
6-1	どのような居場所が欲しいと思うかについて	12
6-2	居場所が欲しいと思わない理由	13
7	困ったことや不安に思っていることについて	14
8	困ったときや不安に思ったときの相談相手について	15

問5 あなたがお住まいの「地域活動やボランティア活動」について	16
1 自分のまちだと思える範囲について	16
2 自治会への加入状況について	17
2-1 加入していない理由について	18
3 民生児童委員について	19
3-1 民生児童委員の活動で知っているものについて	20
4 地区社会福祉協議会があることについて	21
4-1 地区社会福祉協議会の活動で知っているものについて	22
5 地域活動への参加状況について	23
5-1 どのような活動に参加しているかについて	24
5-2 どのような目的で参加しているかについて	25
5-3 現在参加していない理由について	25
6 地域活動の課題について	26
7 ボランティア活動への参加状況について	27
7-1 どのようなボランティア活動に参加しているかについて	28
7-2 機会があれば参加したいと思うボランティア活動について	29
8 地域活動やボランティア活動を盛んにするために効果的な策について	30
9 地域の人達との交流について	31
10 他の世代との交流機会について	32
11 困っている人に、あなたができることについて	33
12 地域において関心を持ったり、実行したりしていることについて	35
13 地域の課題について	36
13-1 地域の課題を身近なこととして感じるときについて	36
14 地域の課題を身近な事として取り組むために必要な手段について	37
問6 「福祉サービス」について	38
1 行政（国、県、市）に期待することについて	38
2 援助を必要とする人が、適切に福祉サービスを利用できるよう優先すべきことについて	39
問7 「地域における再犯防止」について	40
1 再犯防止のために必要だと思うことについて	40
問8 「これからの地域づくり」について	41
1 みんなで助け合うあたたかい地域社会の実現に向けて、住民が取り組むべきことについて	41

I 調査概要

1 調査結果

本調査は、「第四次坂出市地域福祉計画」の策定にあたって、「日常生活における課題」や「地域での助け合いに関する考え方」等について把握し、計画づくりの基礎資料とすることを目的としています。

2 調査の実施について

対 象 者	令和 6 年 6 月 26 日現在、住民基本台帳を基に 18 歳以上の中から無作為抽出した 2,000 名
実施期間	令和 6 年 7 月 10 日（水）～令和 6 年 7 月 31 日（水）
実施方法	郵送配布、郵送回収、オンライン回答

3 調査票の回収状況

配布数	回収数（オンライン回答含）	回収率
2,000 件	858 件	42.9%

※参考：回収率 H25 は 47.7%、H30 年は 49.0%

※注記：集計後に回収したものを含めると、9 月 17 日現在で 870 件、回収率 43.5%となっています。

4 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

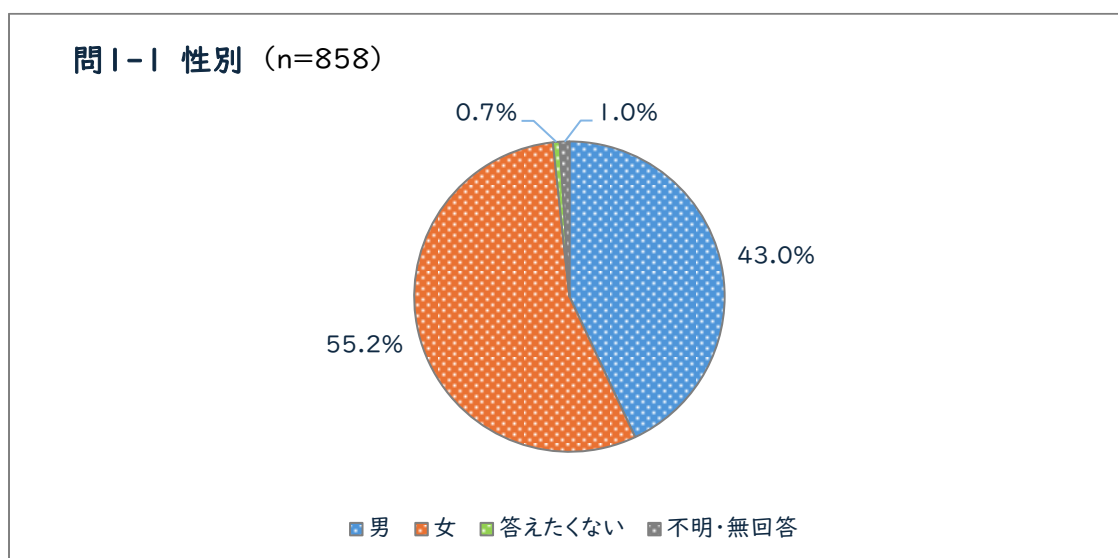
1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数を示しています。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
3. 不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. H30 調査と選択肢が異なる質問については、今回調査に合わせて掲載し、注記を記述しています。

Ⅱ 調査結果

問1 あなた「ご自身のこと」について

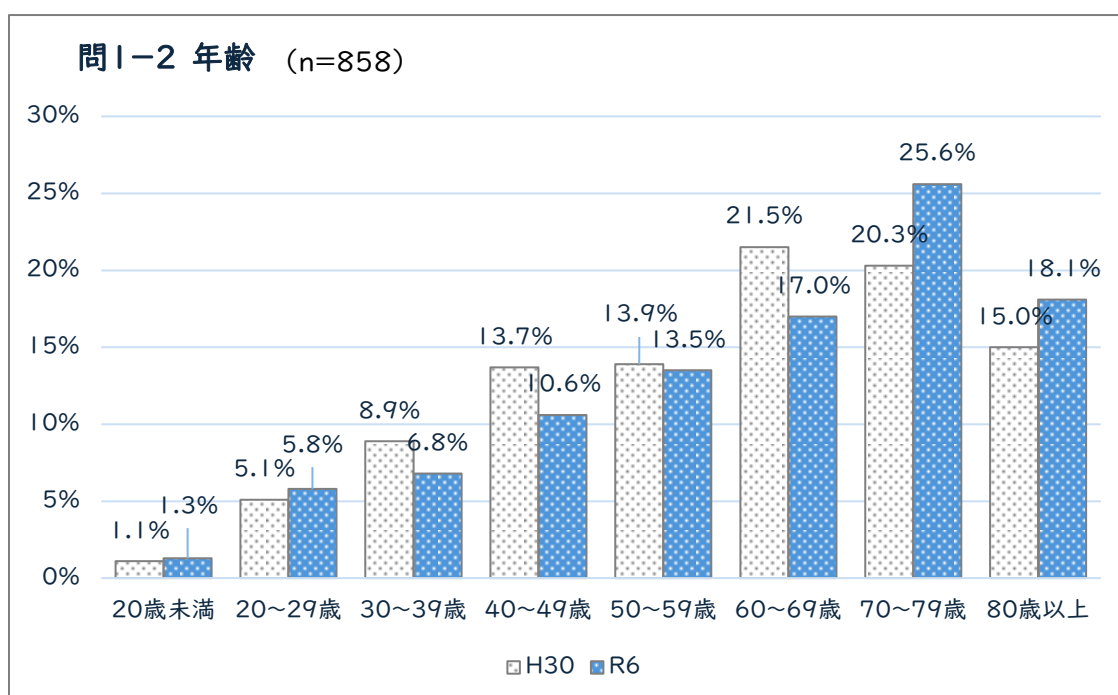
1 性別について

回答者の性別は、「男性」43.0%、「女性」55.2%となっており、女性の方の回答が多くなっています。



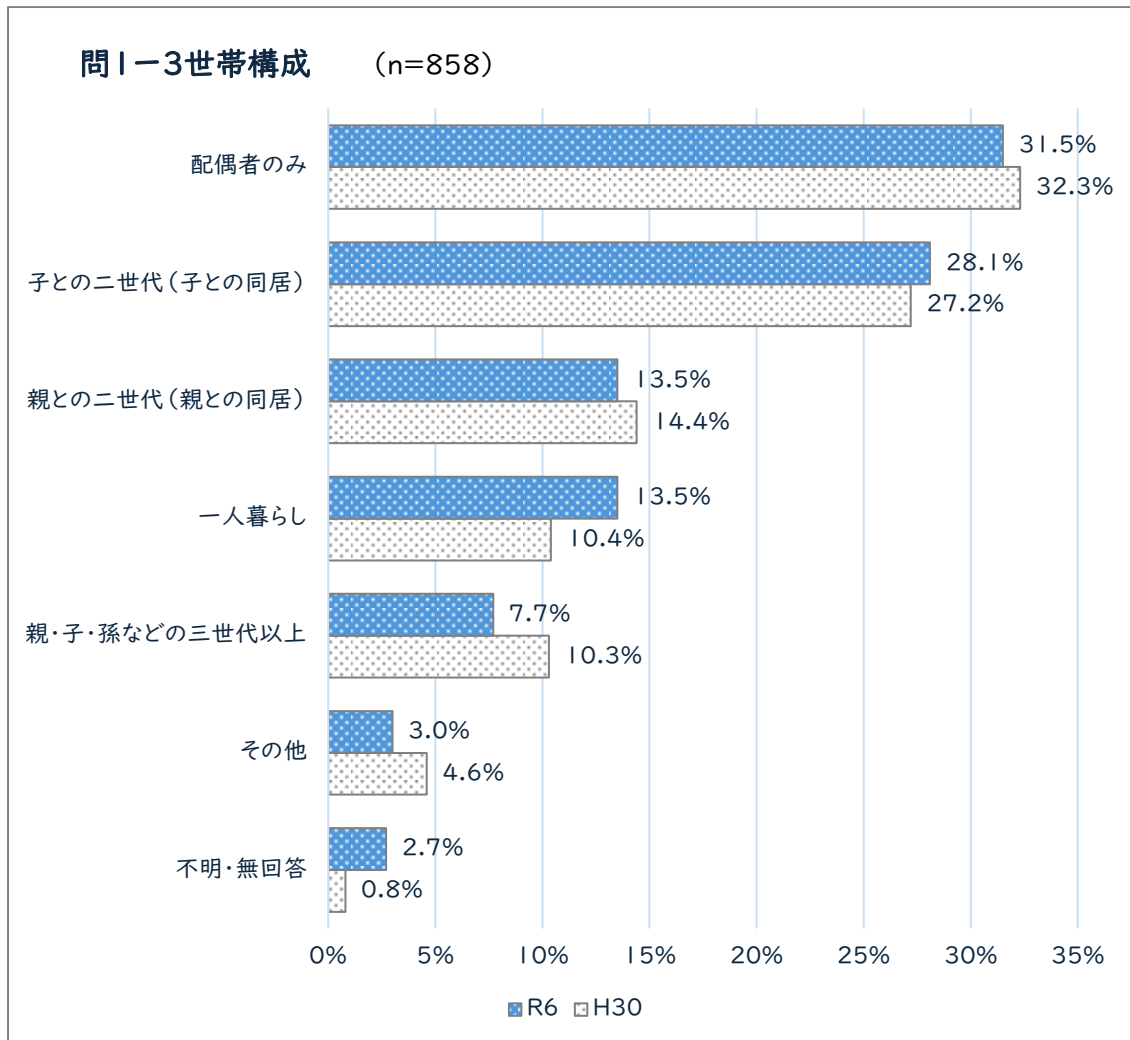
2 年齢について

回答者の年齢は、「70～79 歳」25.6%が最も高く、次いで「80 歳以上」18.1%、「60～69 歳」17.0%となっており、前回との比較では高齢者の割合が高くなっています。



3 世帯構成について

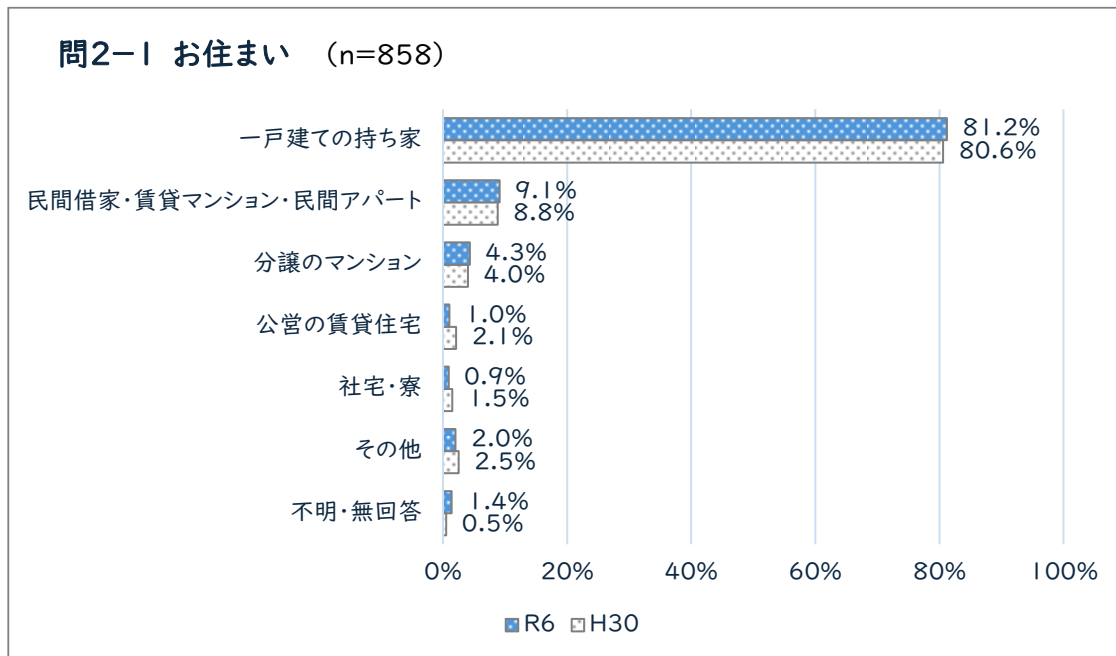
回答者の世帯構成は、「配偶者のみ」31.5%が最も高く、次いで「子との二世帯(子との同居)」28.1%、「親との二世帯(親との同居)」と「一人暮らし」が13.5%となっています。



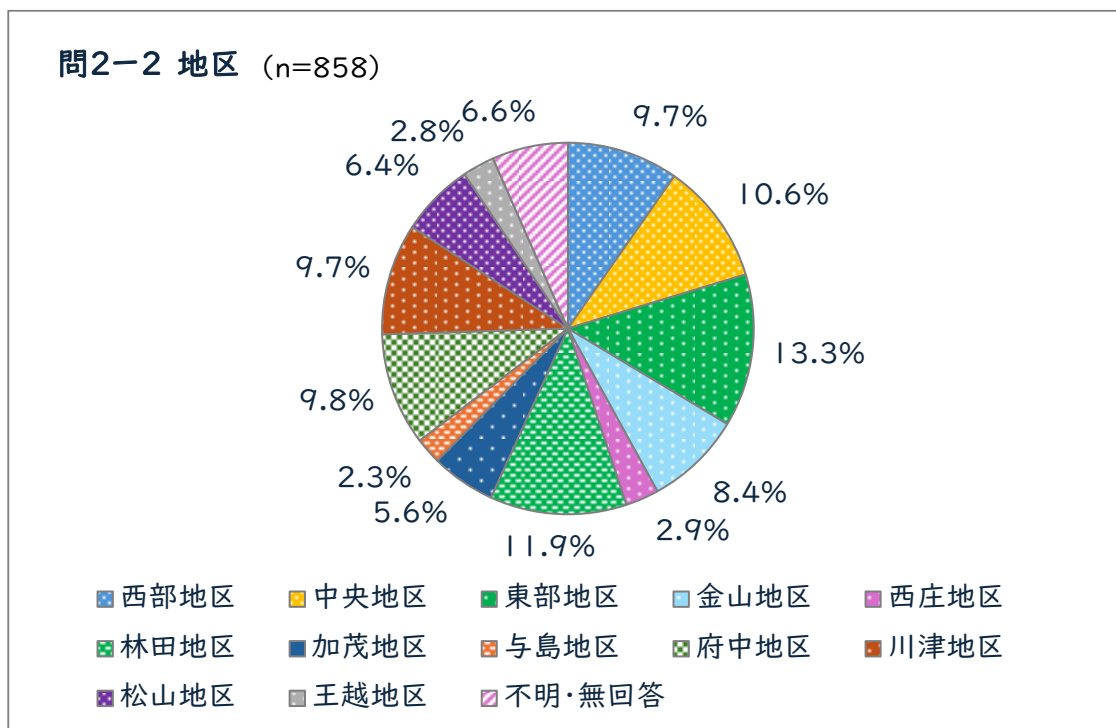
問2 あなたの現在の「お住まい」について

1 お住まいについて

回答者の現在のお住まいは、「一戸建ての持ち家」81.2%が最も高く、次いで「民間借家・賃貸マンション・民間アパート」9.1%、「分譲マンション」4.3%となっています。

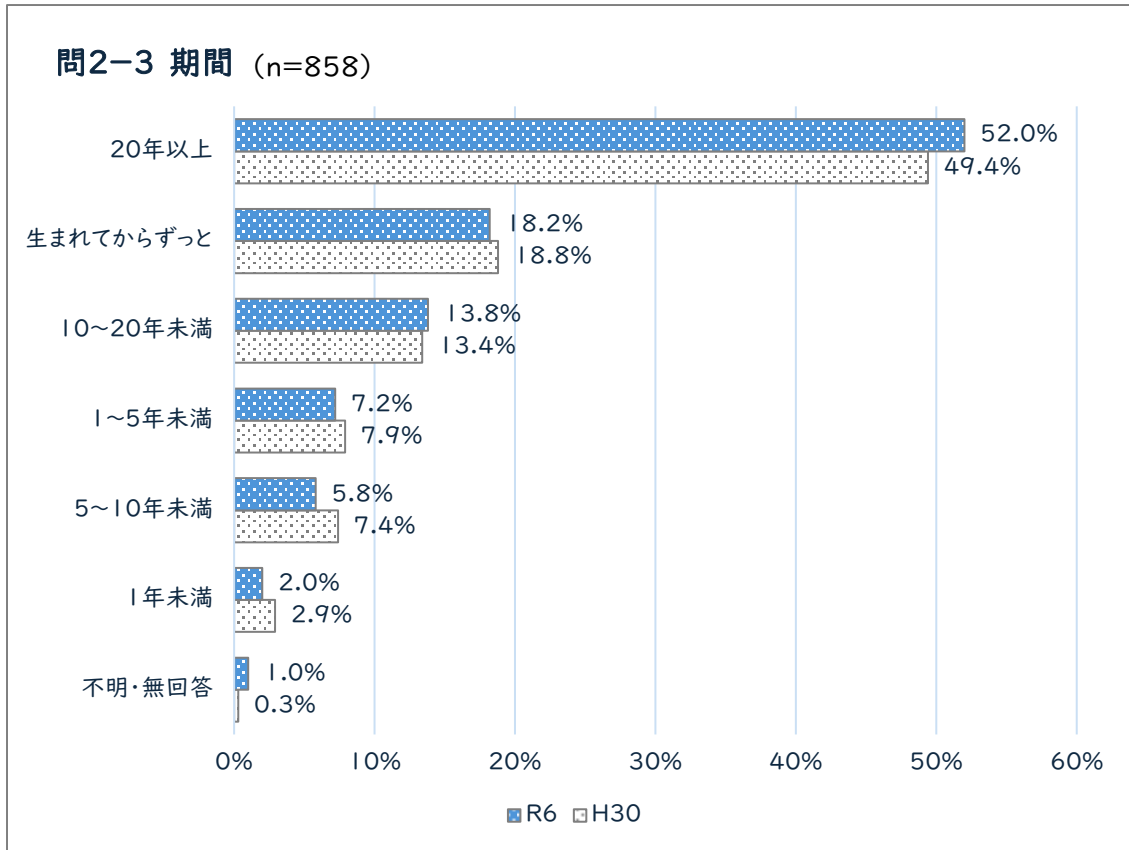


2 お住まいの地区について



3 お住まいの期間について

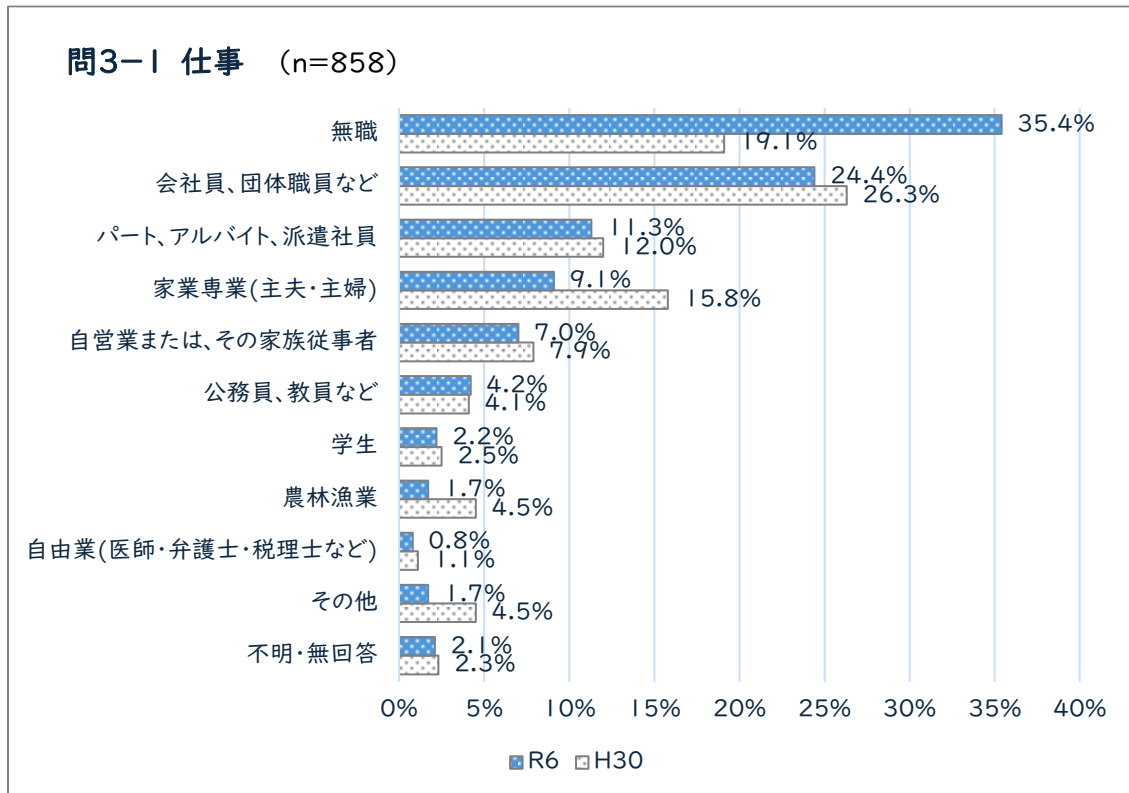
回答者の現在のお住まいの期間は、「20年以上」52.0%が最も高く、次いで「生まれてからずっと」18.2%、「10～20年未満」13.8%となっています。



問3 あなたの現在の「お仕事」について

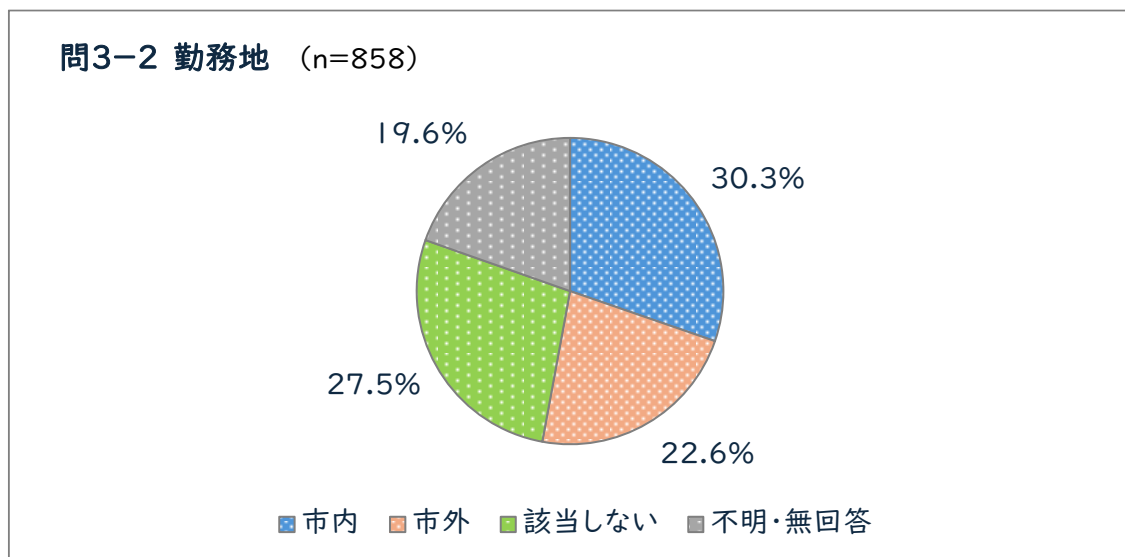
1 お仕事について

回答者の主なお仕事は、「無職」35.4%が最も高く、次いで「会社員、団体職員など」24.4%、「パート、アルバイト、派遣社員」11.3%となっています。前回との比較では、高齢者の回答が多くなったことから、無職の割合が16.3ポイント高くなっています。



2 勤務地について

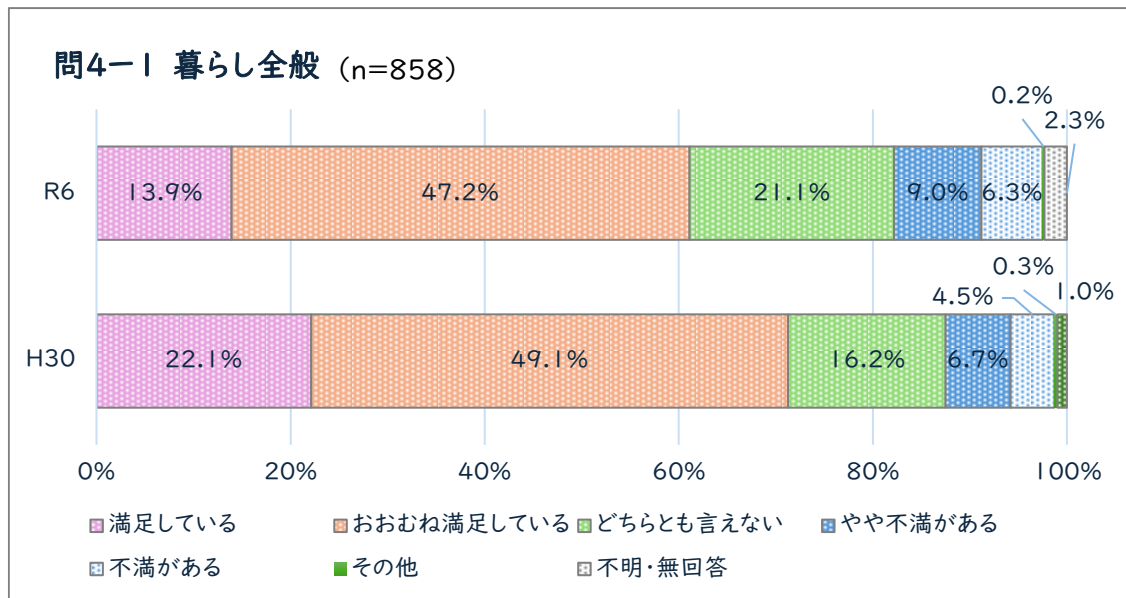
お仕事をされている方の勤務地は、「市内」30.3%で、「市外」22.6%となっています。



問4 あなたの日頃の「暮らし」について

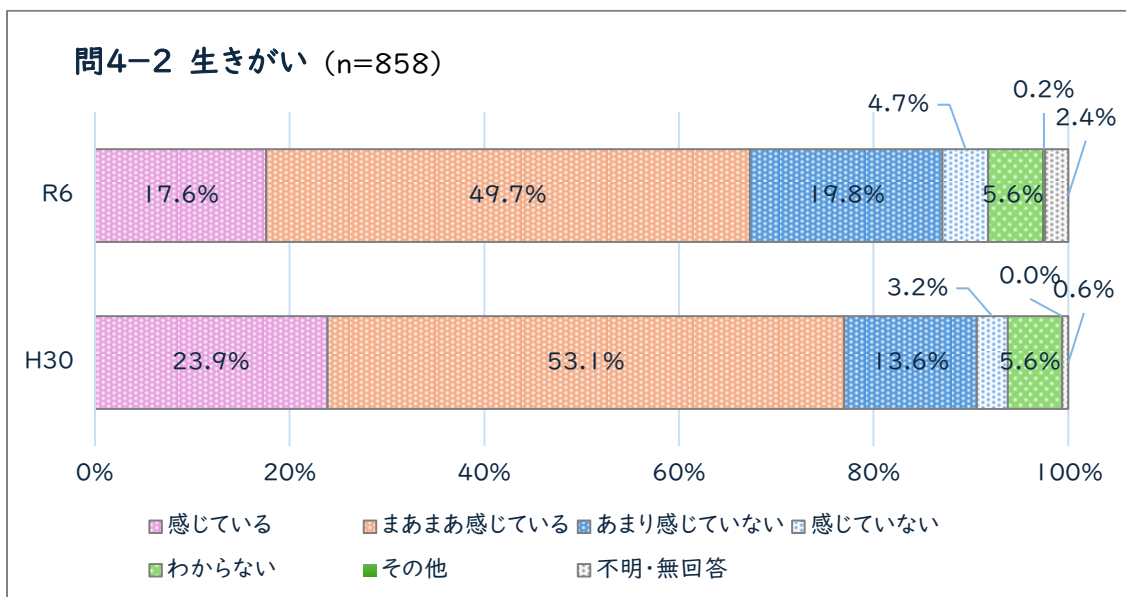
1 暮らし全般について

暮らし全般については、「おおむね満足している」47.2%と、「満足している」13.9%とを合わせて、約6割の方が満足感を感じておられますが、前回との比較では、10.1ポイント低くなっています。



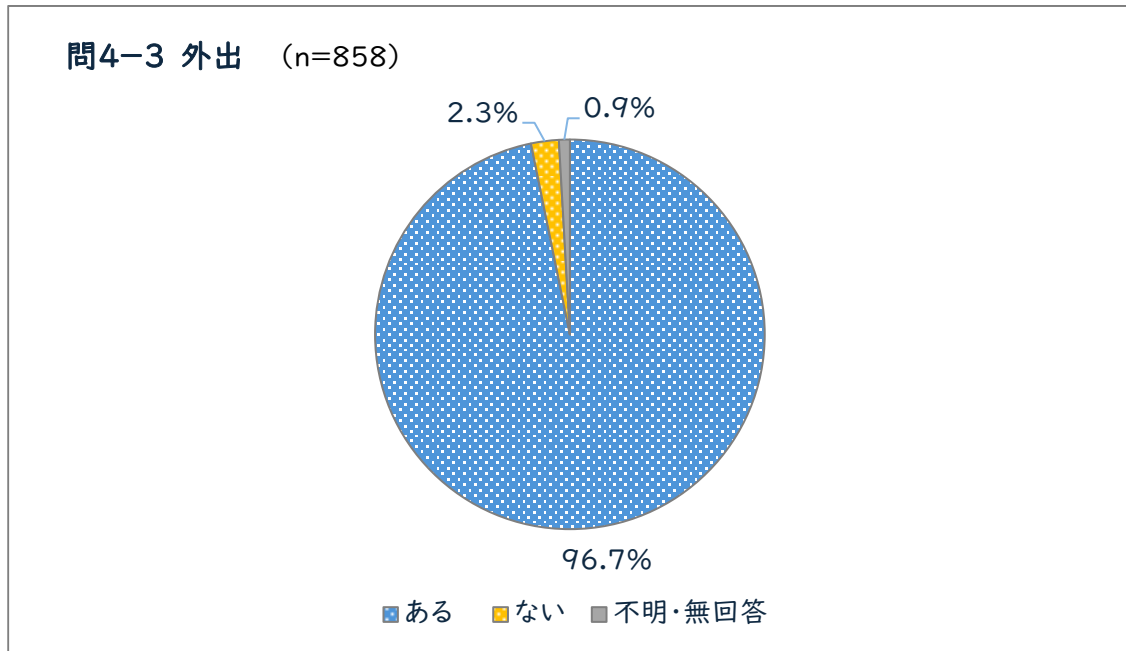
2 生活の中での喜びや生きがいについて

生活の中で感じる喜びや生きがいは、「感じている」17.6%と、「まあまあ感じている」49.7%とを合わせて、7割近い方が喜びや生きがいを感じておられますが、前回との比較では、9.7ポイント低くなっています。



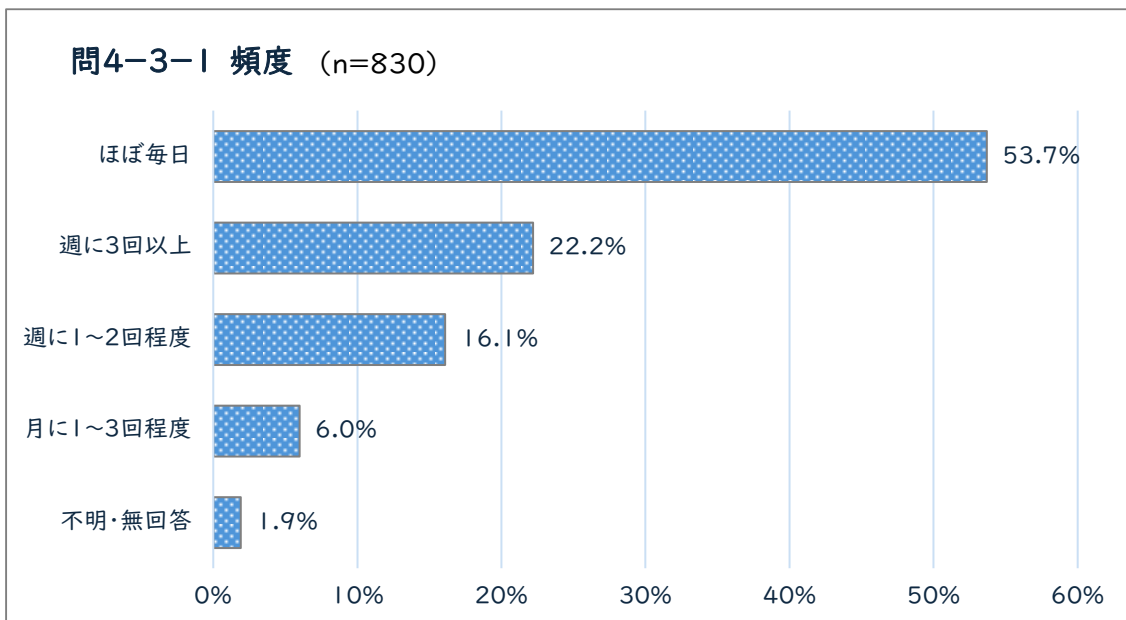
3 外出の機会について

回答者の 96.7%の方が、外出の機会が「ある」と答えています。



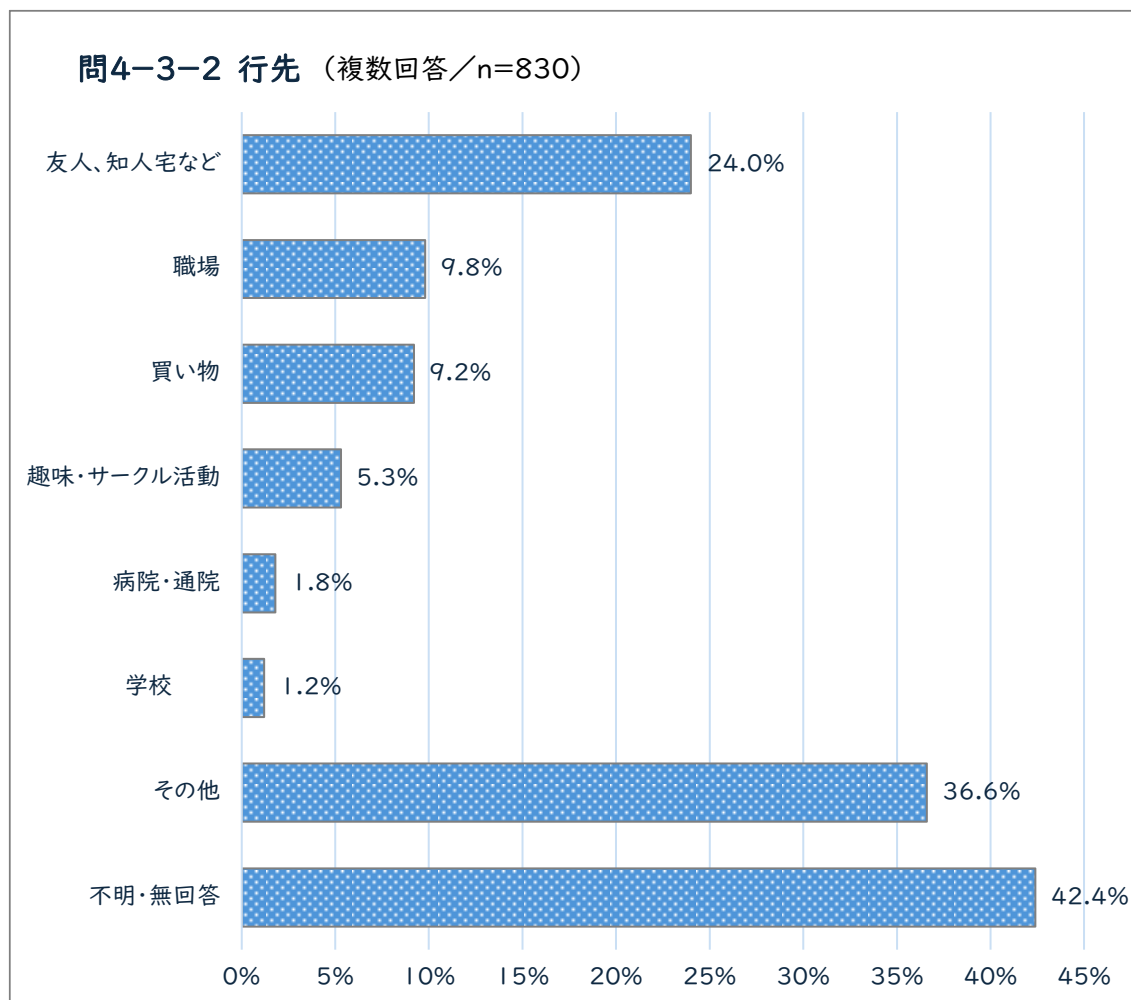
3-1 どのくらいの頻度か

外出の機会が「ある」と答えた方の外出頻度は、「ほぼ毎日」53.7%が最も高く、次いで「週に3回以上」22.2%、「週に1~2回程度」16.1%となっています。



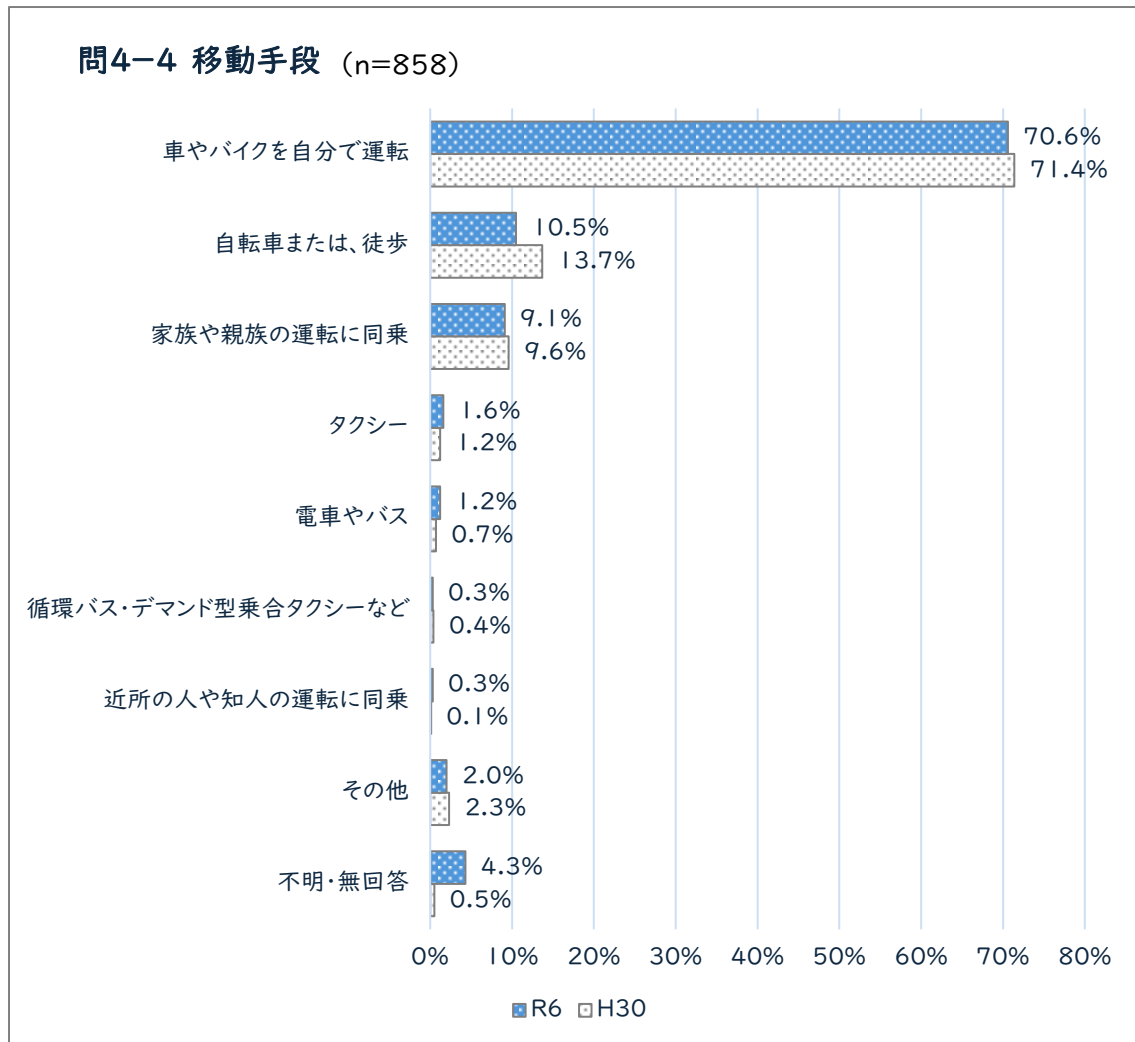
3-2 主にどこに出かけるか

外出の機会が「ある」と答えた方の外出先は、「友人、知人宅など」24.0%が最も高く、次いで「職場」9.8%、「買い物」9.2%となっています。なお、「その他」36.6%の主な外出先では、「習い事の送迎」「デイサービスなど施設の送迎」「公園や図書館など」「ショッピングモール」「ボランティア」など、子育てや介護などに関連するものが多くありました。



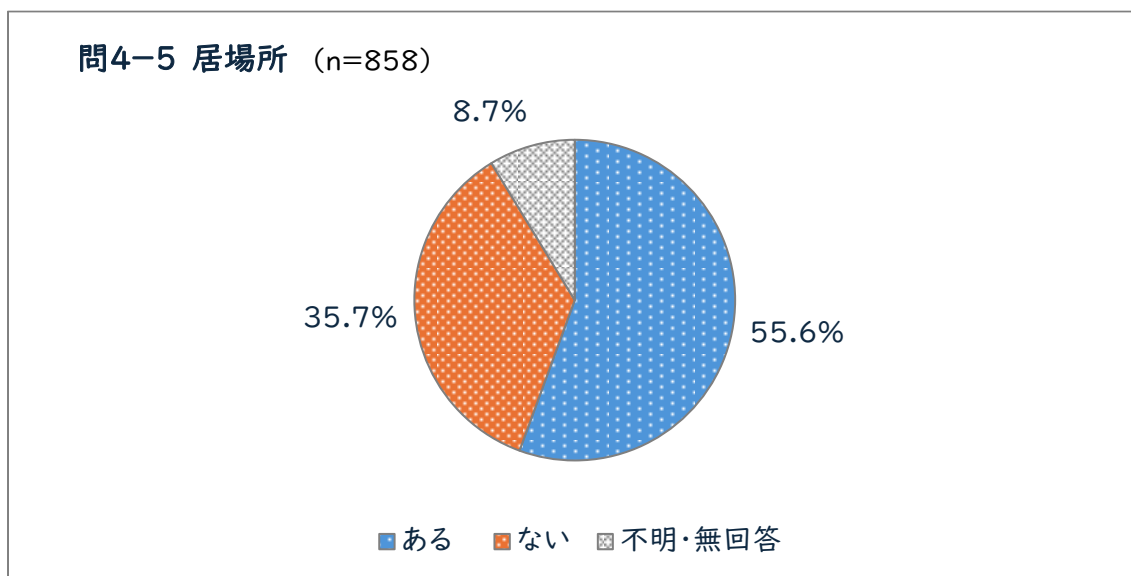
4 買い物や通院時の主な移動手段について

買い物や通院時の主な移動手段については、「車やバイクを自分で運転」70.6%が最も高く、次いで「自転車又は徒歩」10.5%、「家族や親族の運転に同乗」9.1%となっています。



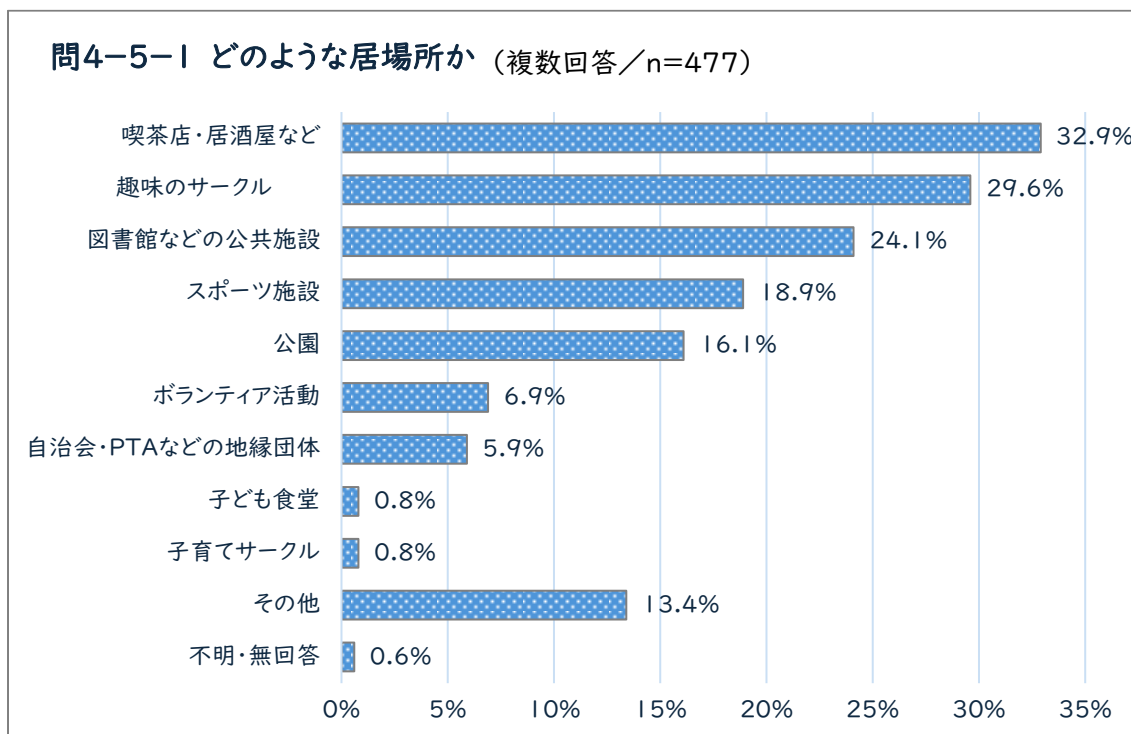
5 学校・職場や自宅以外の場所（居場所）があるかについて

学校・職場や自宅以外の場所（居場所）が「ある」と答えた方が 55.6%、「ない」と答えた方が 35.7%となっています。



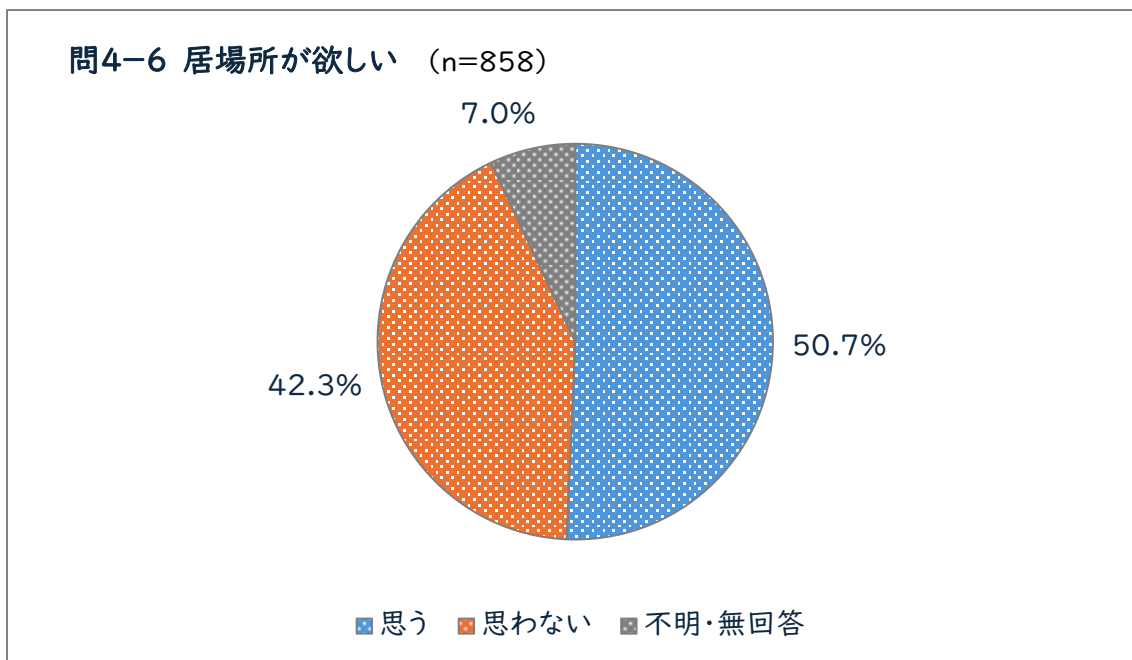
5-1 どのような居場所かについて

居場所が「ある」と答えた方の居場所は、「喫茶店・居酒屋」32.9%が最も高く、次いで「趣味のサークル」29.6%、「図書館などの公共施設」24.1%となっています。また、その他では、「実家や親戚宅」、「友人宅」、「デイサービス」、「趣味の場所」などといった回答がありました。



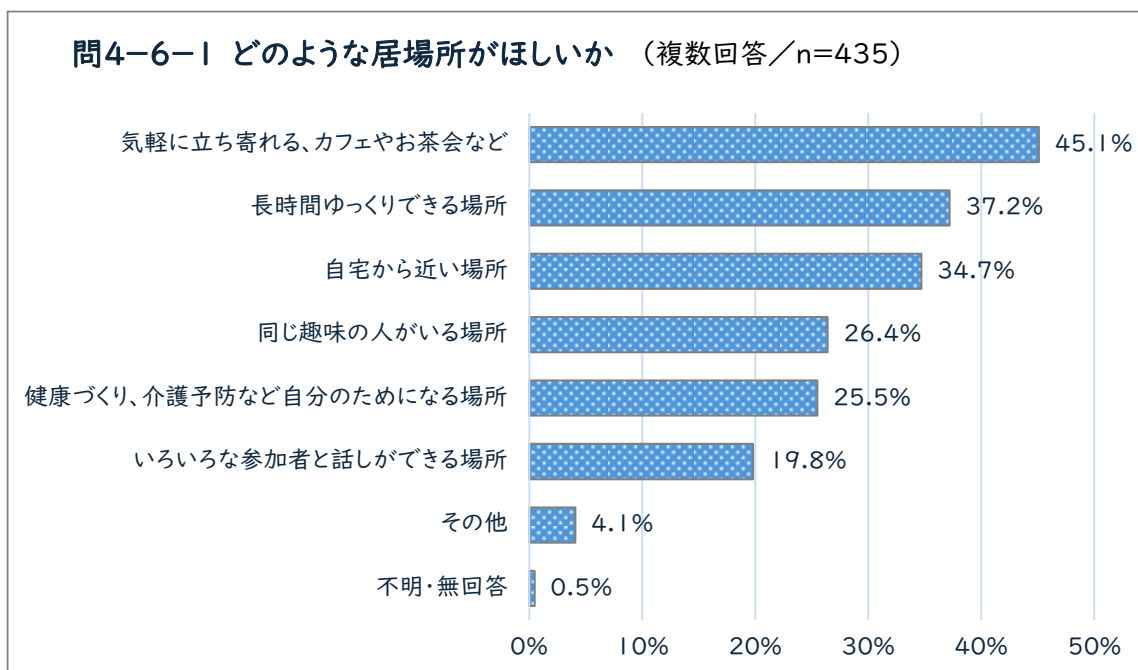
6 居場所が欲しいと思うかについて

居場所が欲しいと「思う」と答えた方が50.7%、「思わない」と答えた方が42.3%となっています。



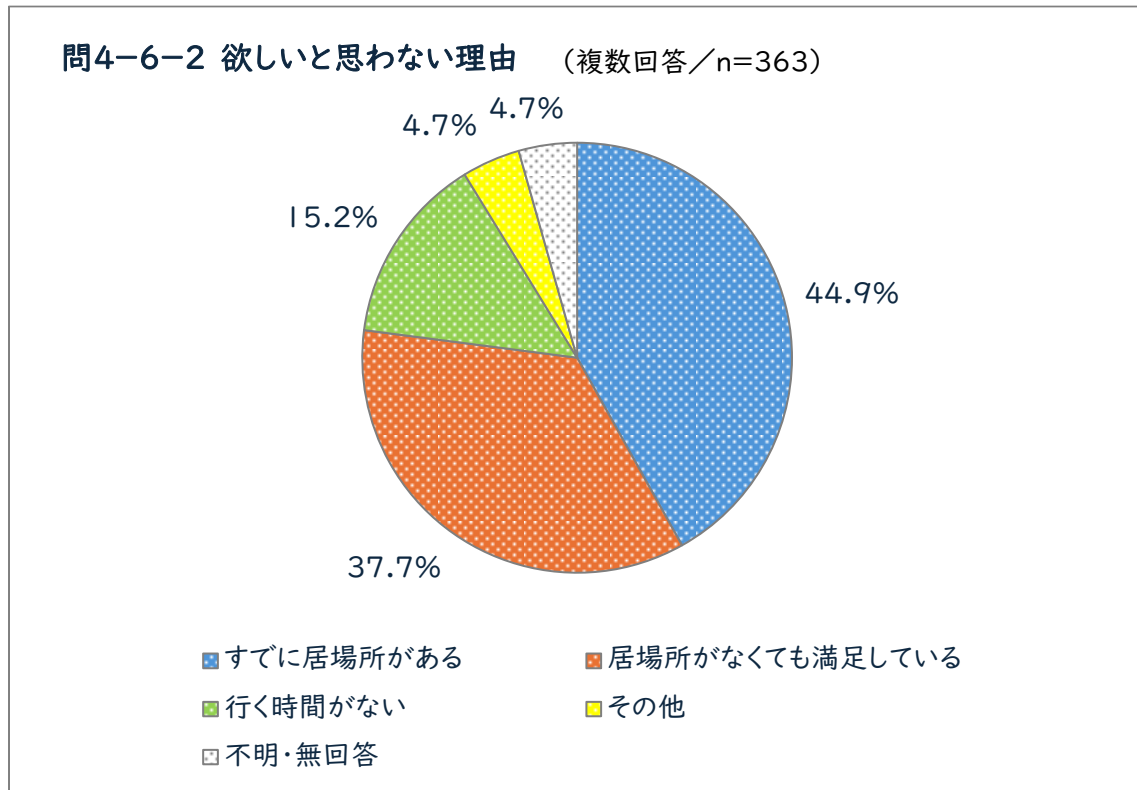
6-1 どのような居場所が欲しいと思うかについて

居場所が欲しいと「思う」と答えた方が希望する居場所は、「気軽に立ち寄れる、カフェやお茶会など」45.1%が最も高く、次いで「長時間ゆっくりできる場所」37.2%、「自宅から近い場所」34.7%となっています。その他では、「静かにゆっくりできる場所」や「子ども連れで、長時間滞在できる場所」などの回答がありました。



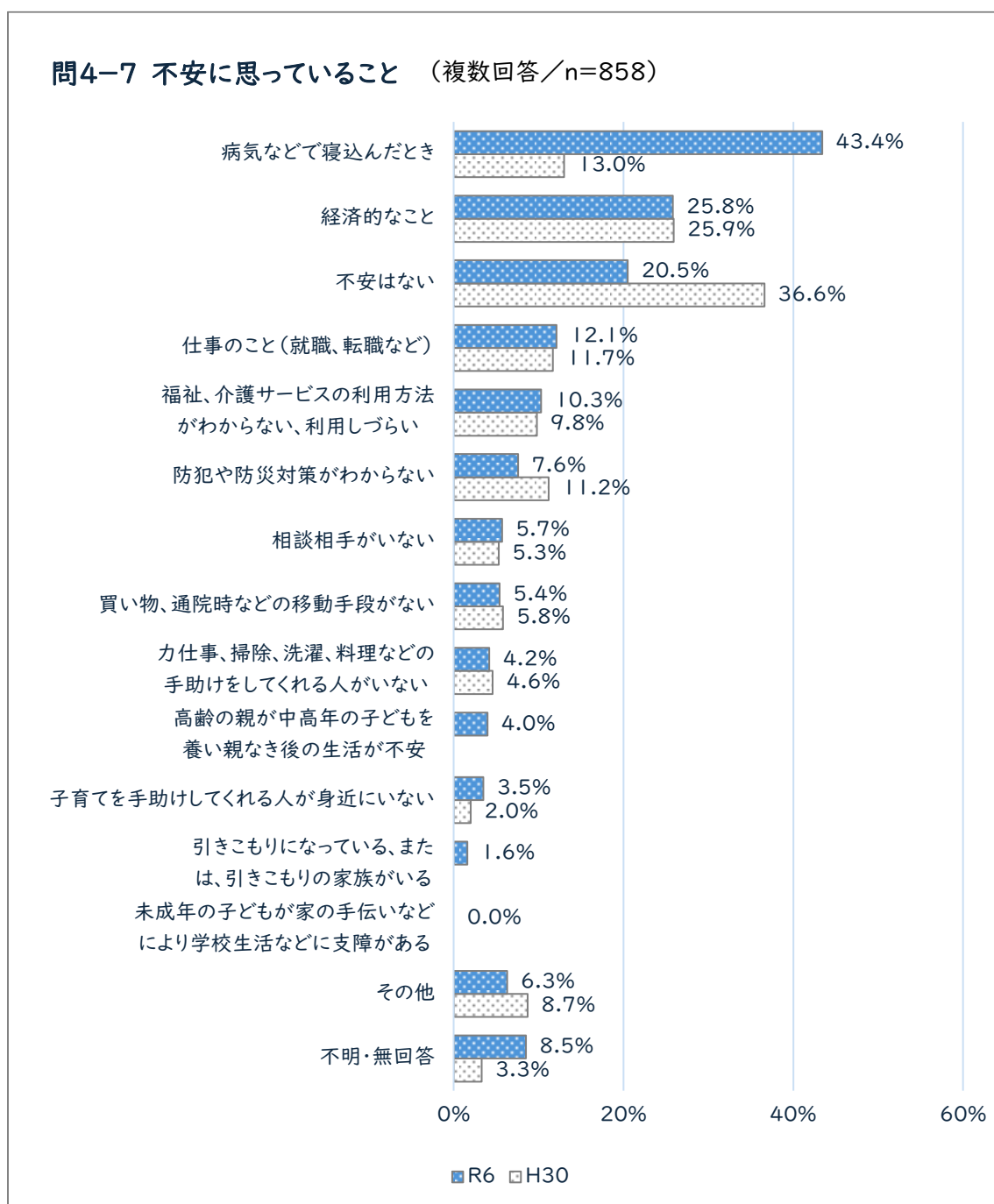
6-2 居場所が欲しいと思わない理由

居場所が欲しいと「思わない」方の理由としては、「すでに居場所がある」44.9%が最も高く、次いで「居場所がなくても満足している」37.7%、「行く時間がない」15.2%となっています。その他では、「自宅が落ち着く」などの回答がありました。



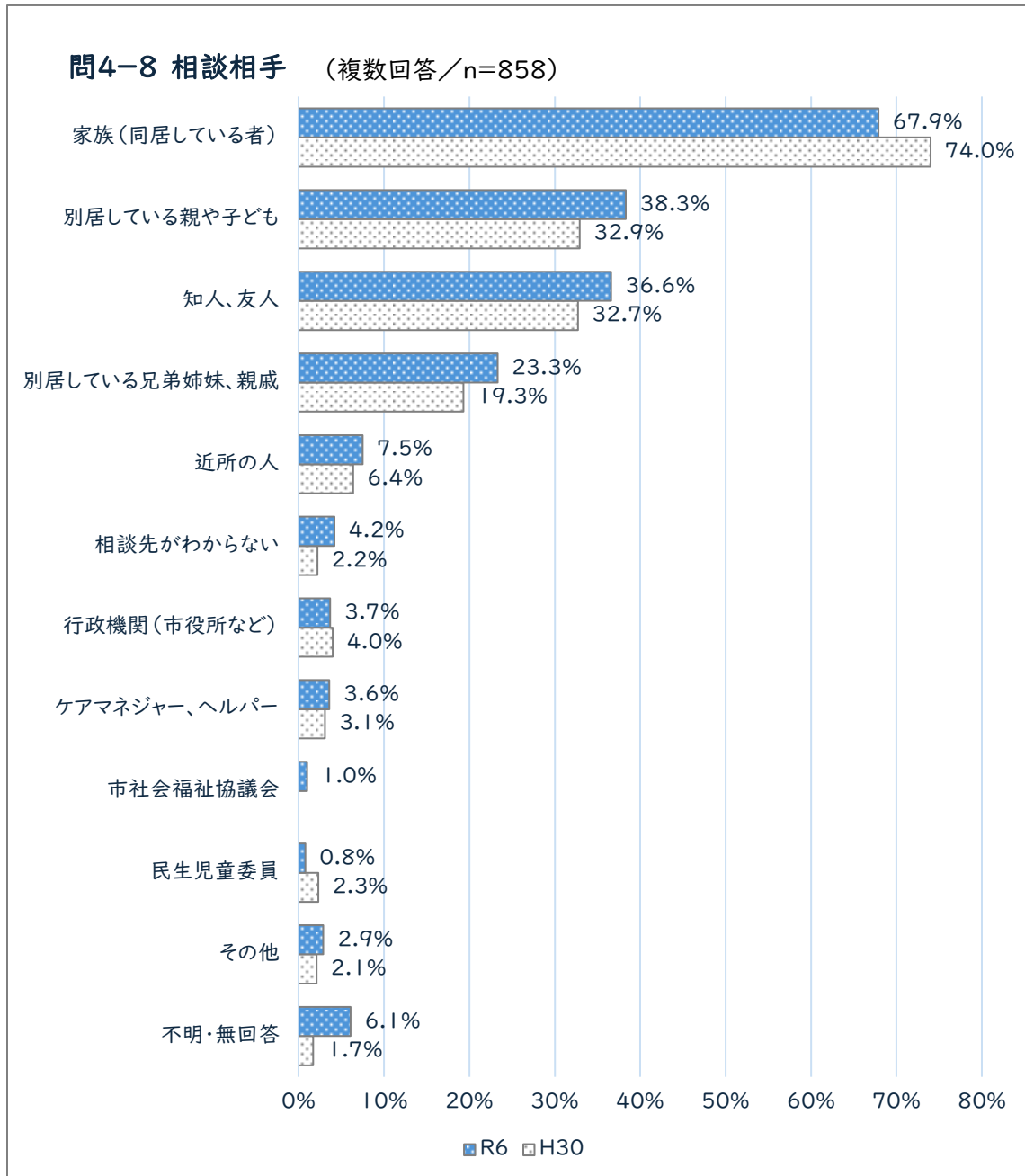
7 困ったことや不安に思っていることについて

困ったことや不安に思っていることについては、「病気などで寝込んだ時」43.4%が最も高く、次いで「経済的なこと」25.8%、「不安はない」20.5%となっています。前回との比較では、「不安はない」が16.1ポイント低くなった一方で、「病気などで寝込んだとき」が30.4ポイント高くなり、大きく変動しています。なお、今回は「未成年の子どもが家の手伝いなどにより学校生活などに支障がある」という、ヤングケアラー問題に関する項目を新たに追加しています。



8 困ったときや不安に思ったときの相談相手について

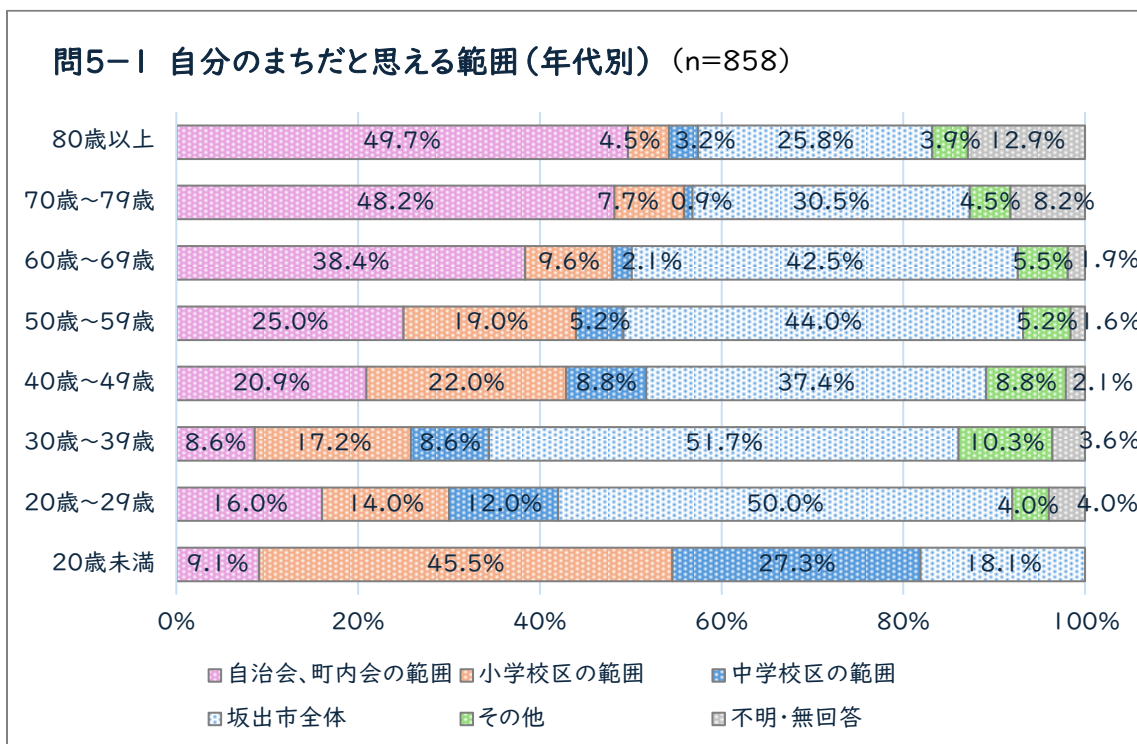
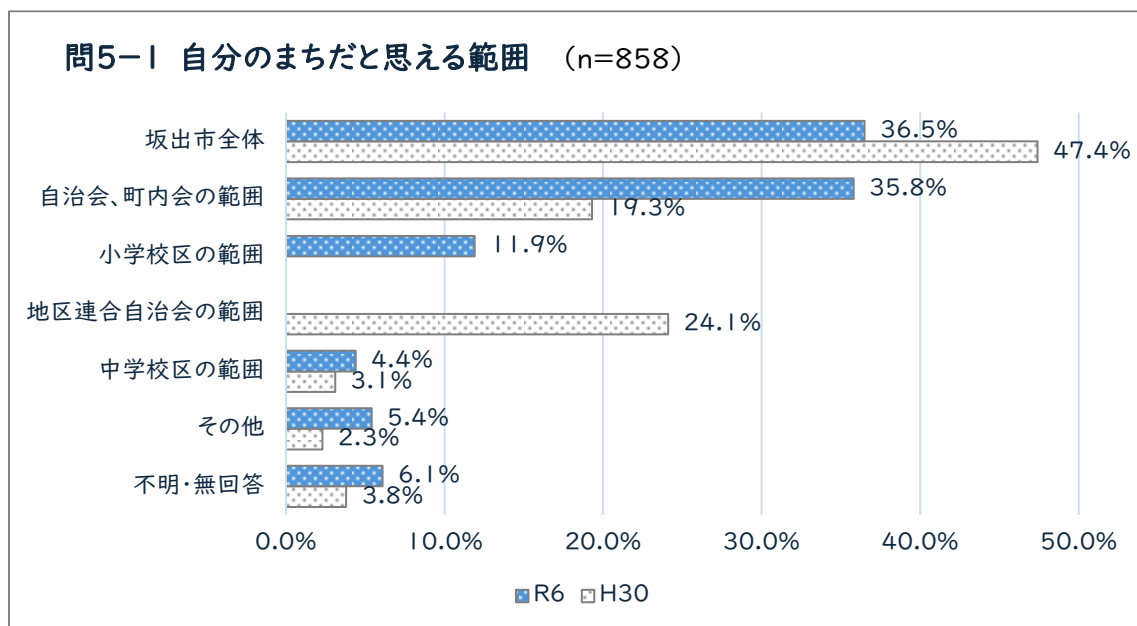
困ったときや不安に思っているときの相談相手については、「家族（同居している者）」67.9%が最も高く、次いで「別居している親や子ども」38.3%、「知人、友人」36.6%となっています。前回との比較では、「家族」が6.1ポイント下がり、「別居している親や子ども」が5.4ポイント、「知人、友人」が3.9ポイント高くなっています。なお、今回の調査では、「社会福祉協議会」を新たに加えています。



問5 あなたがお住まいの「地域活動やボランティア活動」について

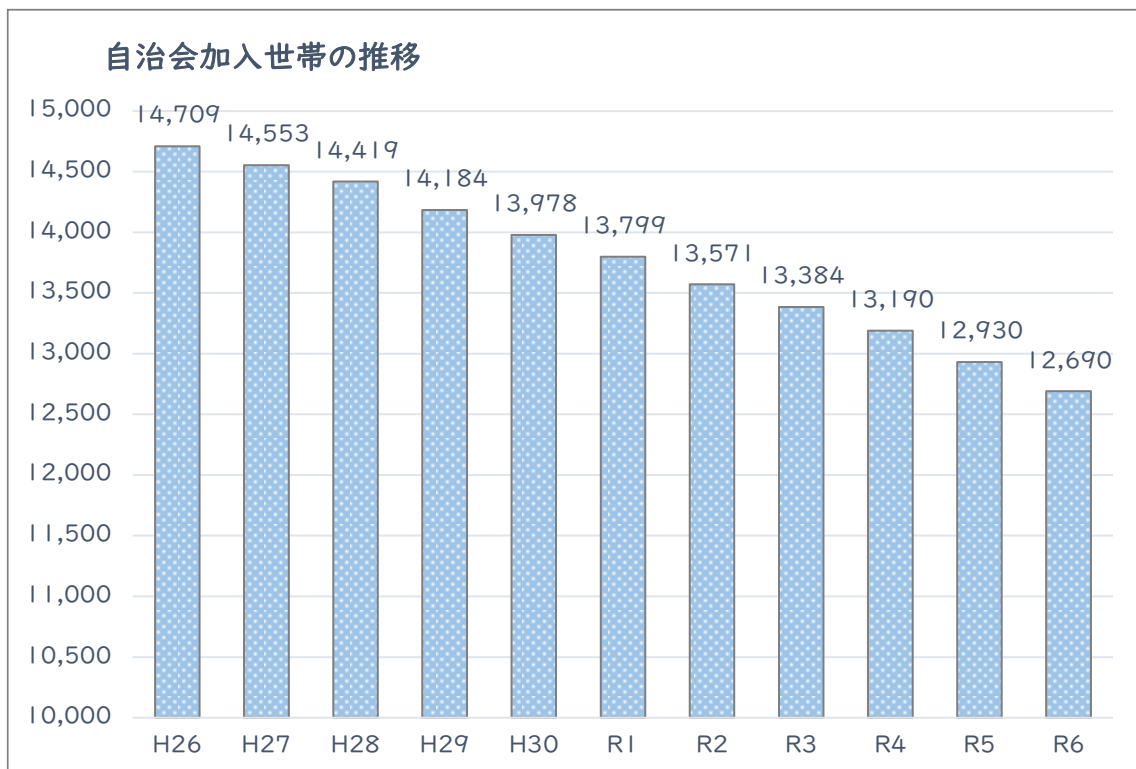
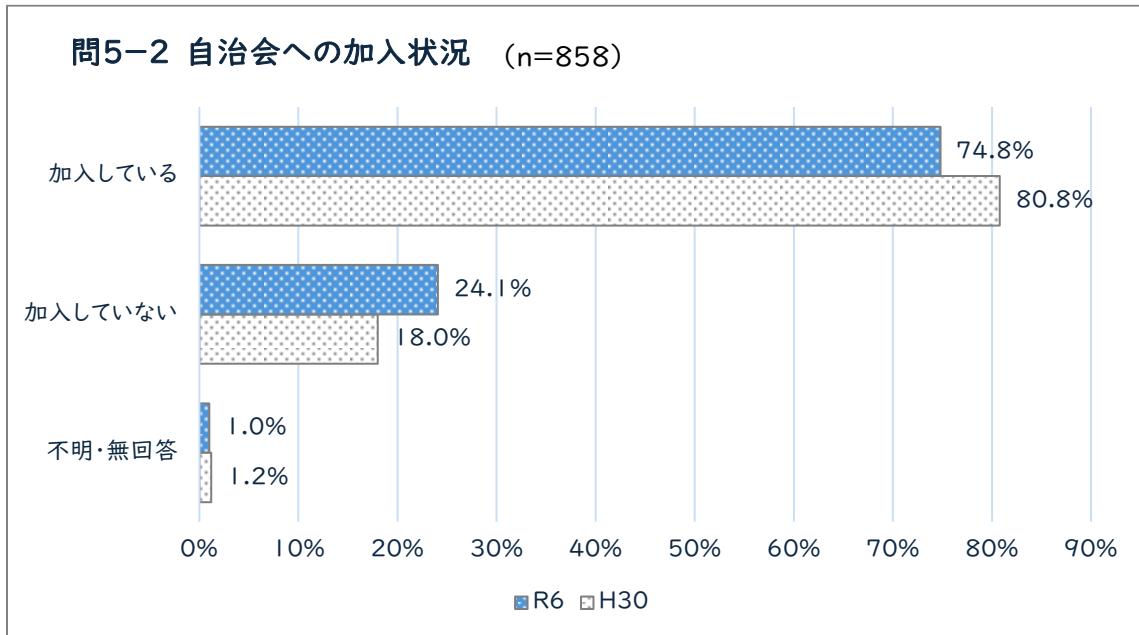
1 自分のまちだと思える範囲について

自分のまちだと思える範囲については、「坂出市全体」36.5%が最も高く、次いで「自治会、町内会の範囲」35.8%、「小学校区の範囲」11.9%となっています。前回との比較では、「坂出市全体」の割合がかなり低くなった一方で、「自治会、町内会の範囲」が高くなり、ほぼ同じ割合になっています。なお、今回の調査では、前回の項目にありました「地区連合自治会の範囲」を削除し、「小学校区の範囲」を新たに加えています。



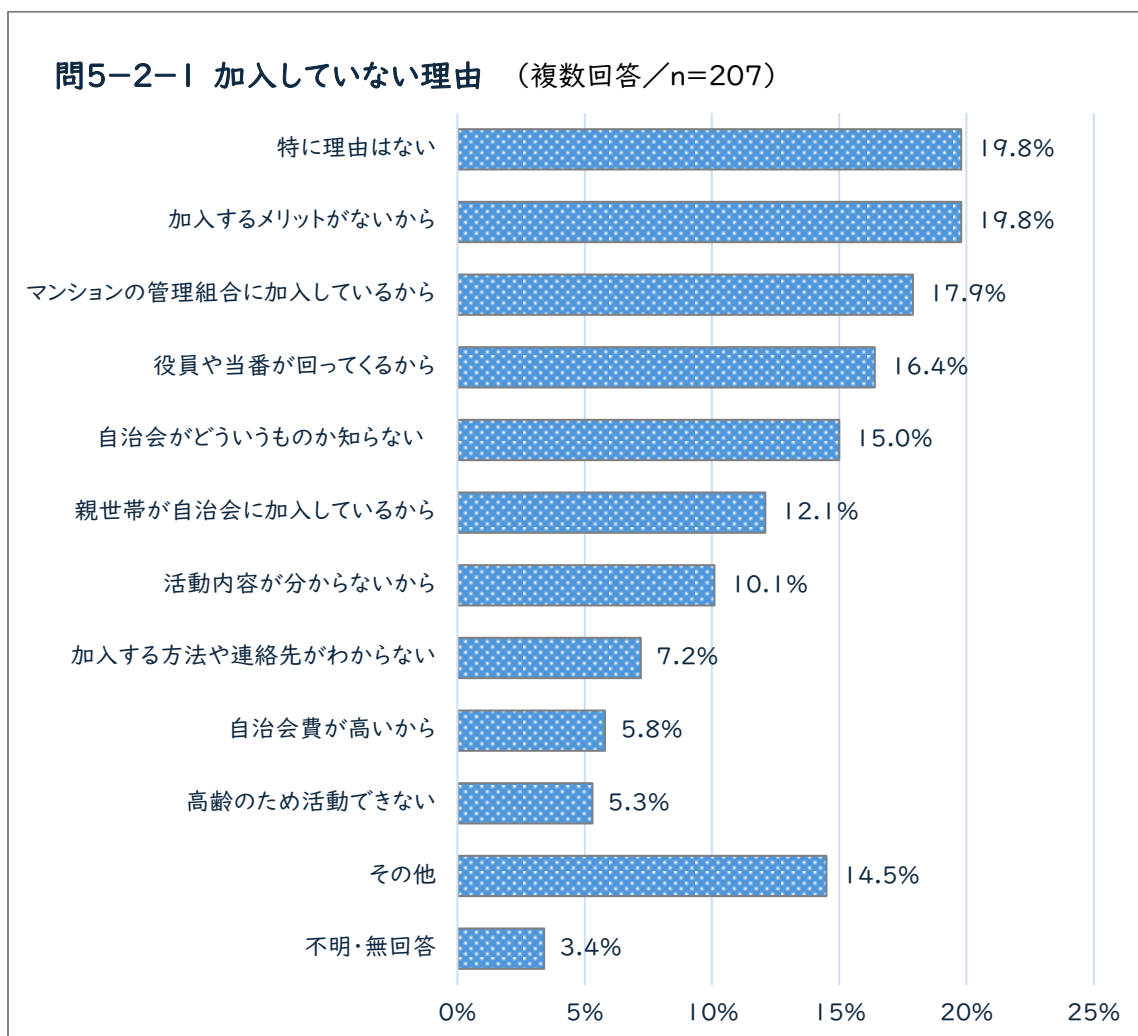
2 自治会への加入状況について

自治会への加入状況については、「加入している」と答えた方が 74.8%、「加入していない」と答えた方が 24.1%となっており、自治会への加入世帯は、年々減少しています。



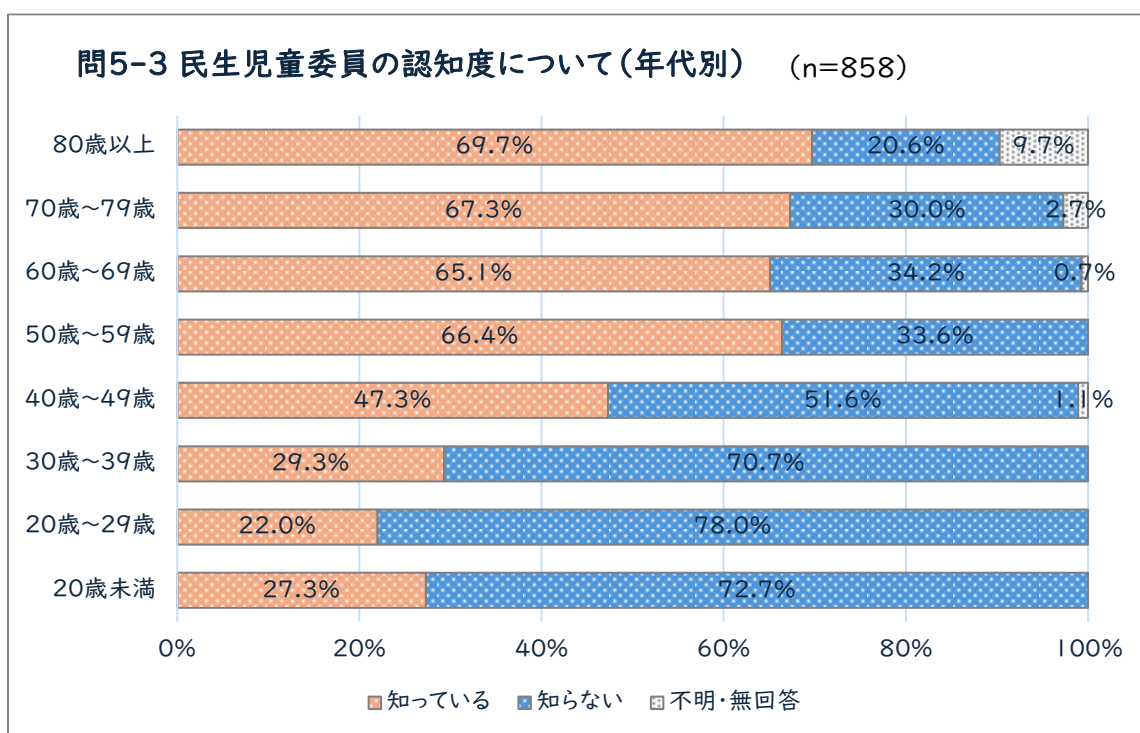
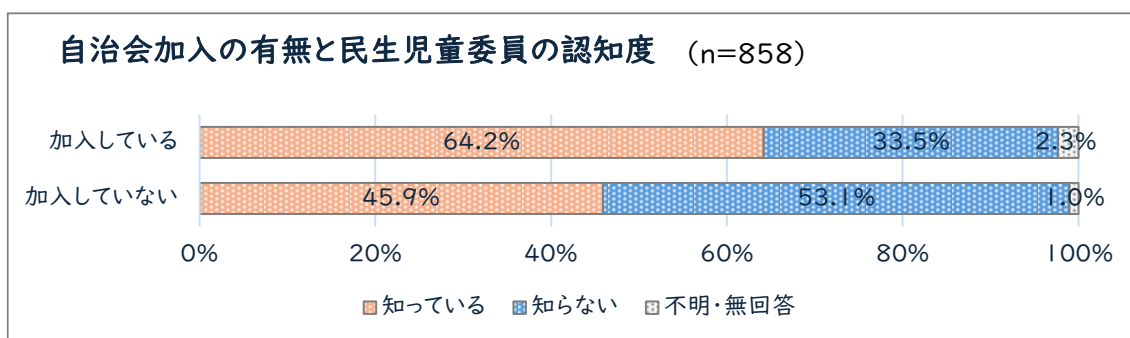
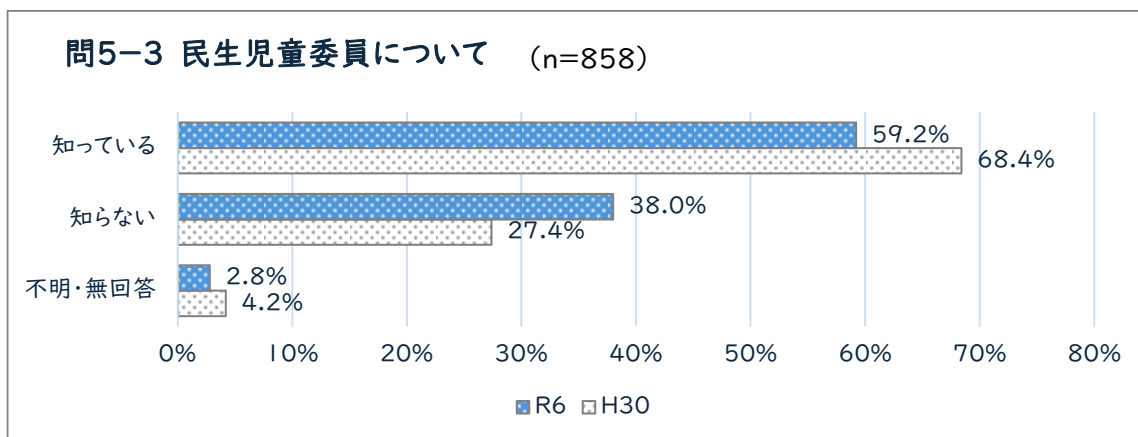
2-1 加入していない理由について

自治会に「加入していない」方の理由については、「特に理由はない」と「加入するメリットがないから」19.8%が最も高く、次いで「マンションの管理組合に加入しているから」17.9%となっています。なお、その他では、「仕事などで役員ができない」「自治会がない」「親も入っていない」などといった回答が多くありました。



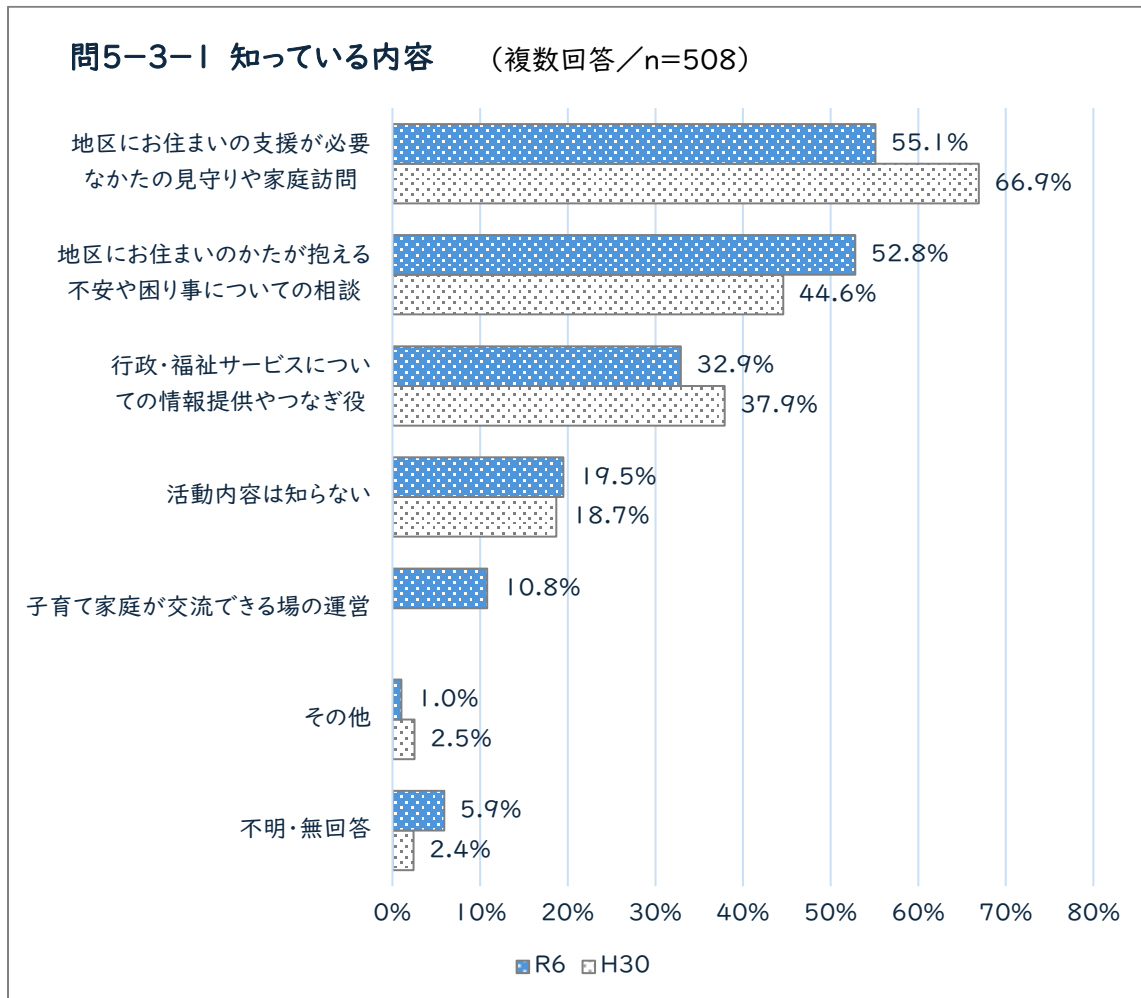
3 民生児童委員について

民生児童委員については、「知っている」と答えた方が59.2%、「知らない」と答えた方が38.0%となっており、前回との比較では、「知っている」が9.2ポイント低くなり、「知らない」が10.6ポイント高くなっています。また、自治会加入率と認知度の相関では、特に若い世代での認知度の低さが顕著に表れています。



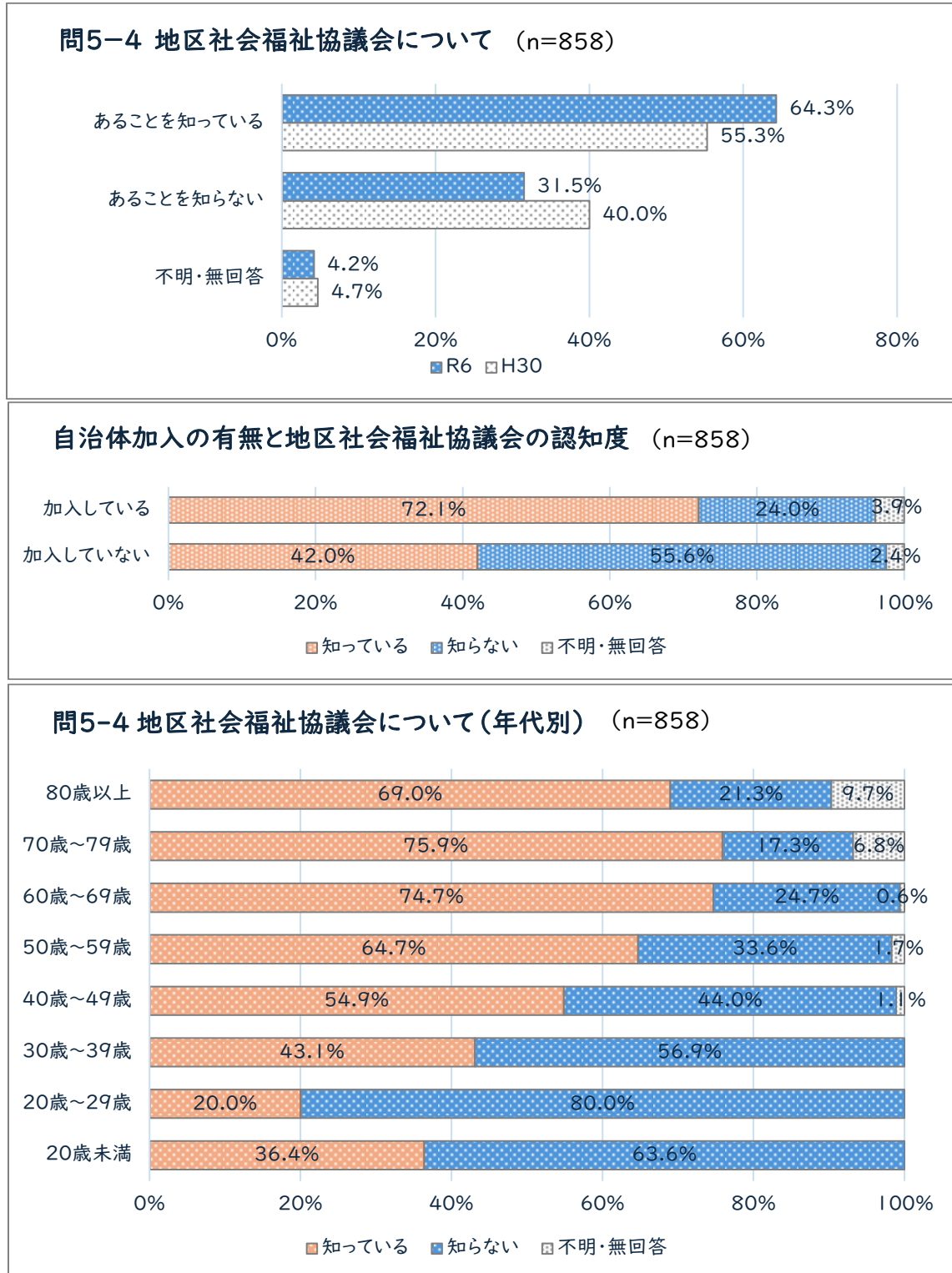
3-1 民生児童委員の活動で知っているものについて

民生児童委員の活動で知っているものについては、「地区にお住まいの支援が必要なかたの見守りや家庭訪問」55.1%が最も高く、次いで「地区にお住まいのかたが抱える不安や困り事についての相談」52.8%、「行政・福祉サービスについての情報提供やつなぎ役」32.9%となっています。なお、今回より「子育て家庭が交流できる場の運営」を新たに加えており、約1割の方が知っているとの回答を寄せています。



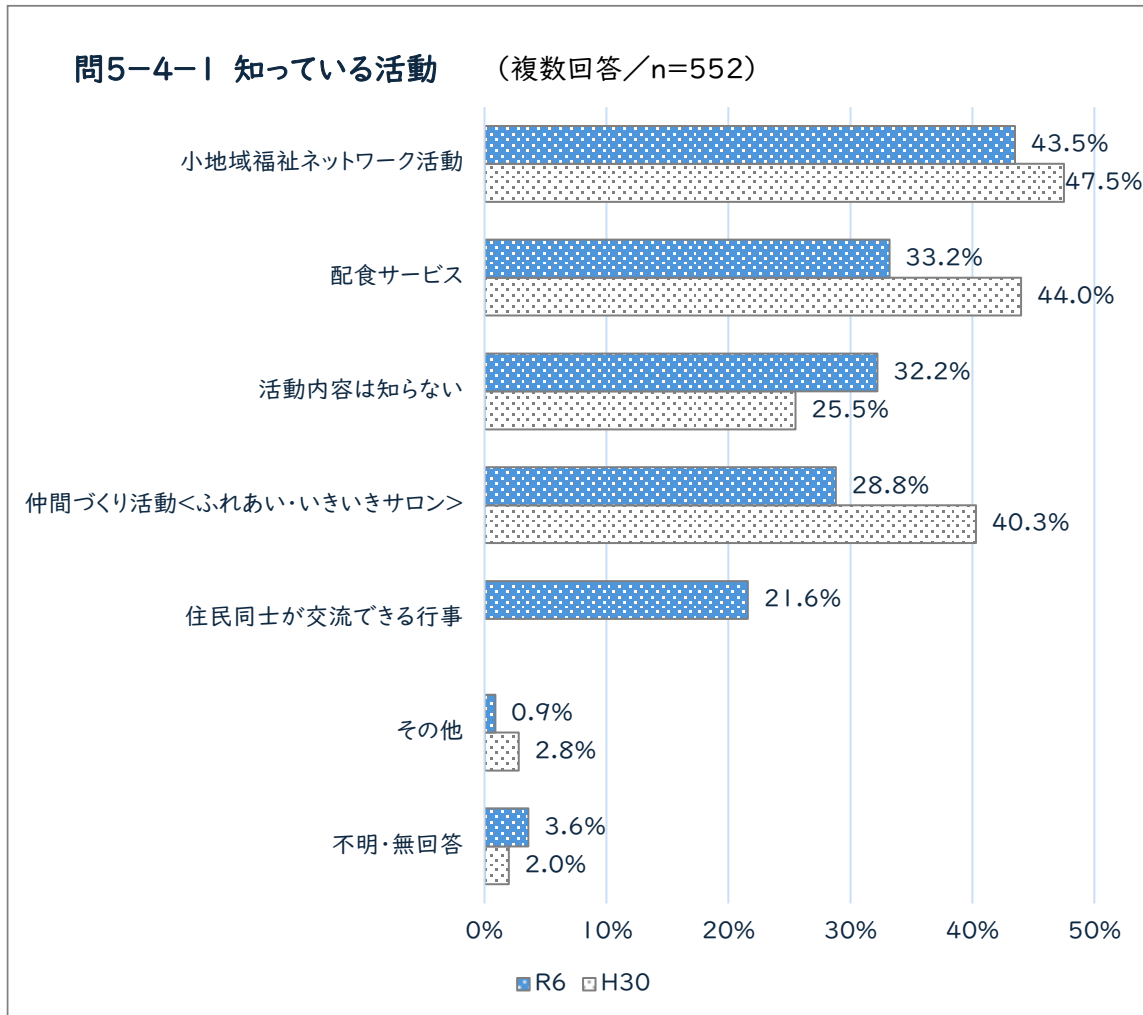
4 地区社会福祉協議会があることについて

地区社会福祉協議会があることについては、「知っている」と答えた方が 64.3%、「知らない」と答えた方が 31.5%となっており、前回との比較では、「知っている」方の割合が9ポイント高くなっています。また、自治会加入との相関では、自治会での活動が周知の機会となっていることがうかがえます。さらに若年層の認知度が非常に低くなっています。



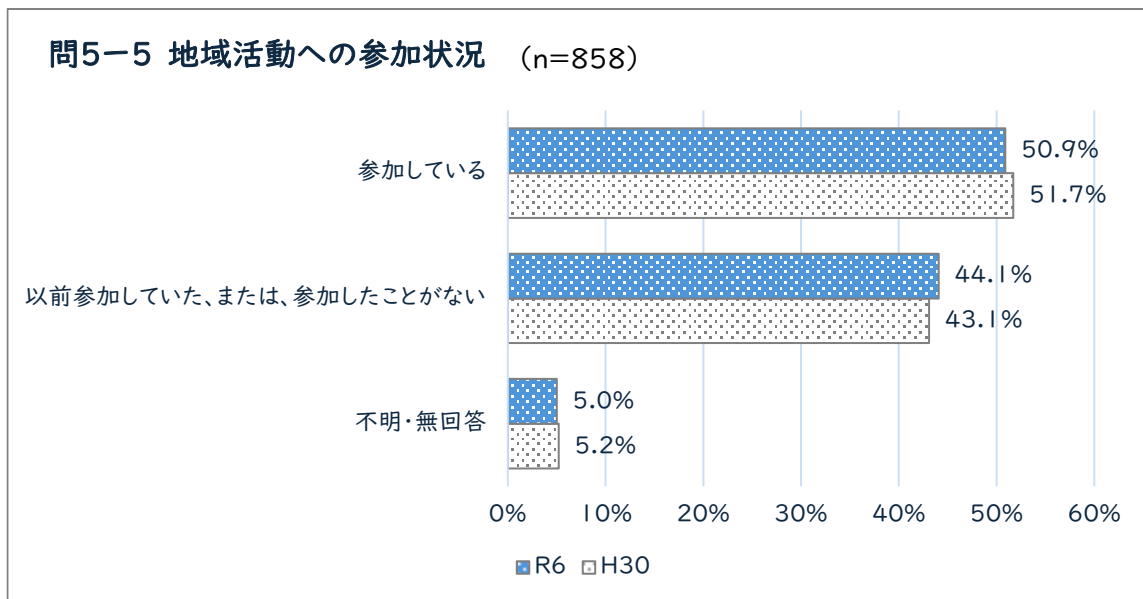
4-1 地区社会福祉協議会の活動で知っているものについて

地区社会福祉協議会の活動で知っているものについては、「小地域福祉ネットワーク活動」43.5%が最も高く、次いで「配食サービス」33.2%、「活動は知らない」32.2%となっています。なお、今回より「住民同士が交流できる行事」を新たに加えておりますが、21.6%と比較的高い割合となっています。



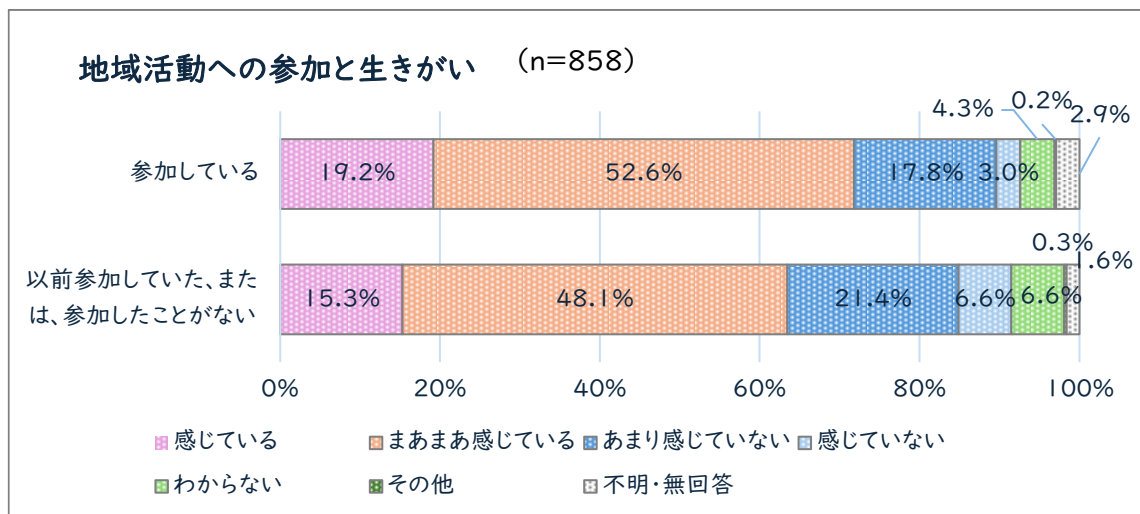
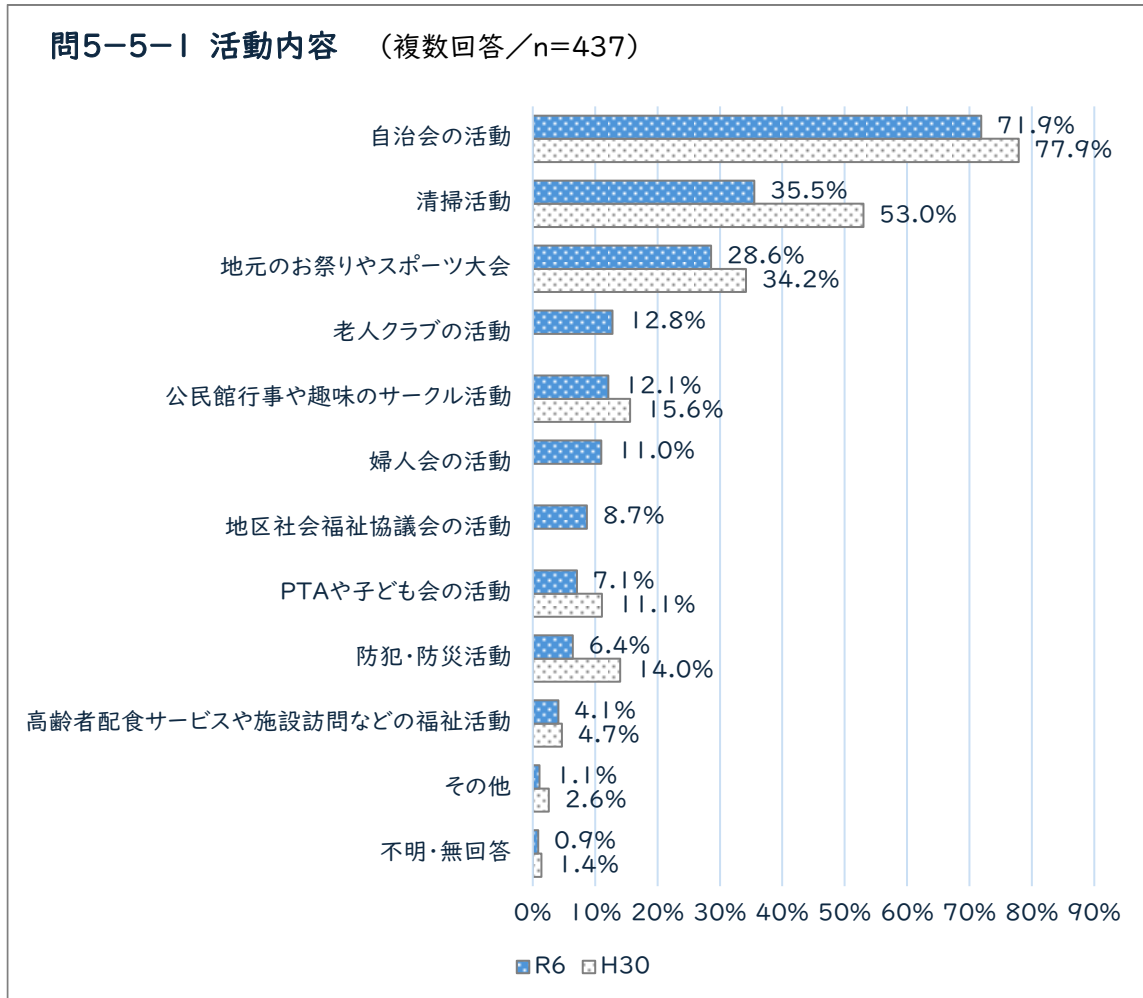
5 地域活動への参加状況について

地域活動への参加状況については、「参加している」と答えた方が 50.9%、「以前参加していた、または、参加したことがない」と答えた方が 44.1%となっています。



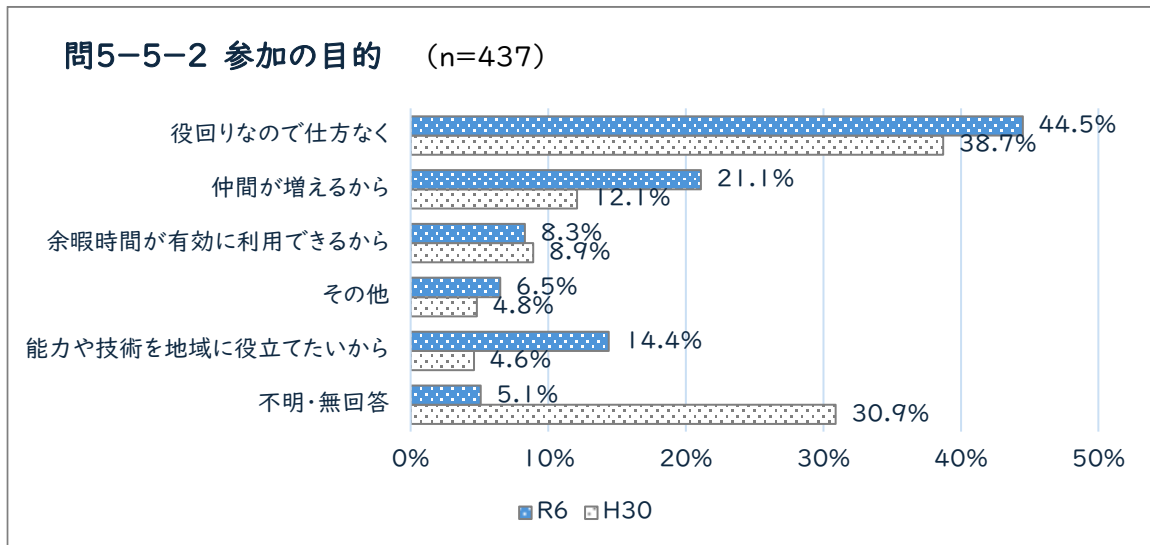
5-1 どのような活動に参加しているかについて

活動内容については、「自治会の活動」71.9%が最も高く、次いで「清掃活動」35.5%、「地元のお祭りやスポーツ大会」28.6%となっています。また、「喜びや生きがいを感じているか」との相関では、活動に参加しているの方が「喜びや生きがいを感じている方」が多い傾向にあります。なお、今回より「老人クラブの活動」と「地区社会福祉協議会の活動」を新たに加えています。



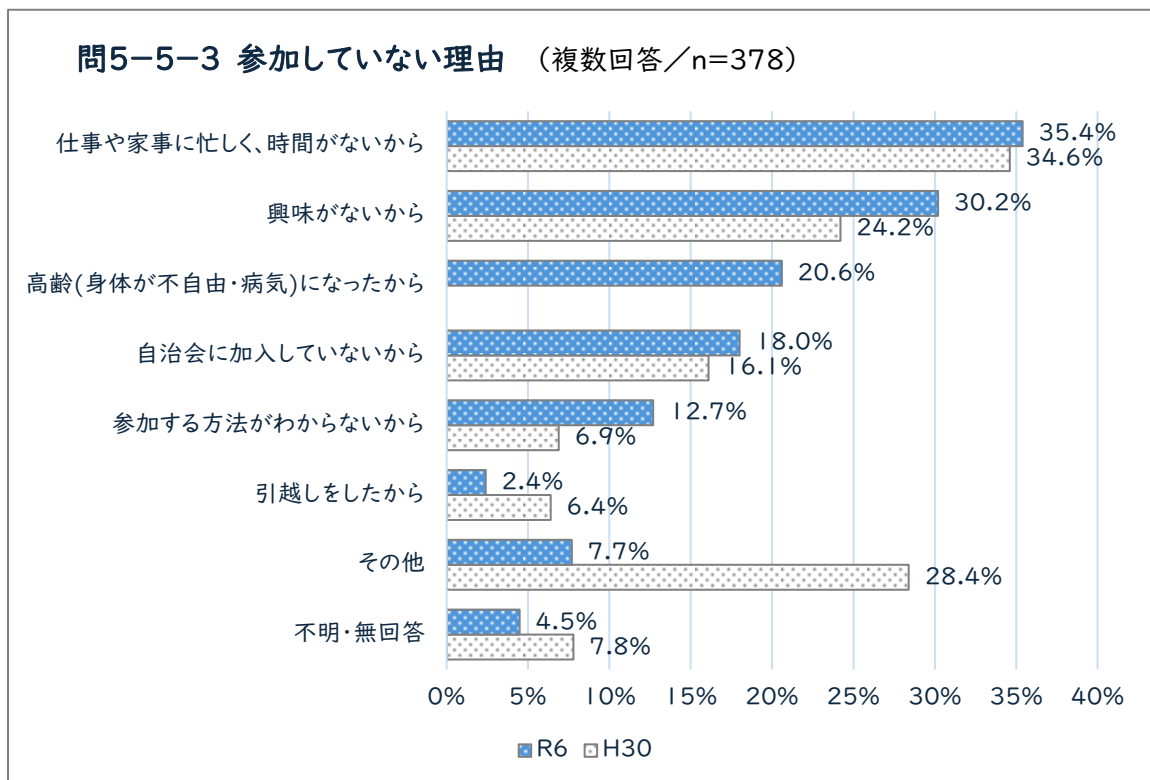
5-2 どのような目的で参加しているかについて

どのような目的で参加しているかについては、「役回りなので仕方なく」44.5%で最も高く、次いで「仲間が増えるから」21.1%、「余暇時間が有効に利用できるから」8.3%となっています。



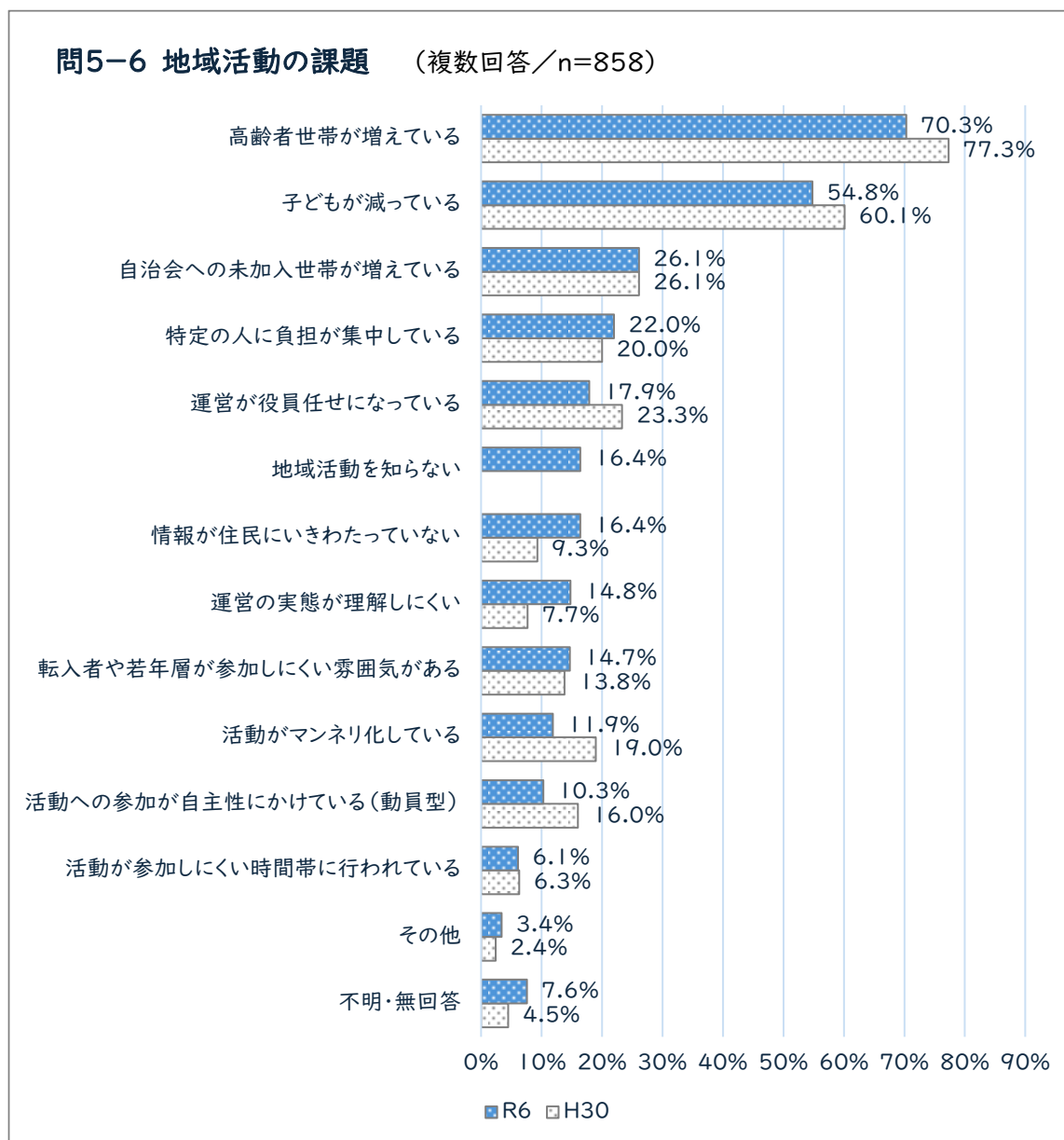
5-3 現在参加していない理由について

現在活動に参加していない方の理由については、「仕事や家事に忙しく、時間がないから」35.4%が最も高く、次いで「興味がないから」30.2%、「高齢(身体が不自由・病気)になったから」20.6%となっています。なお、「高齢(身体が不自由・病気)になったから」は、今回から新たに加えています。



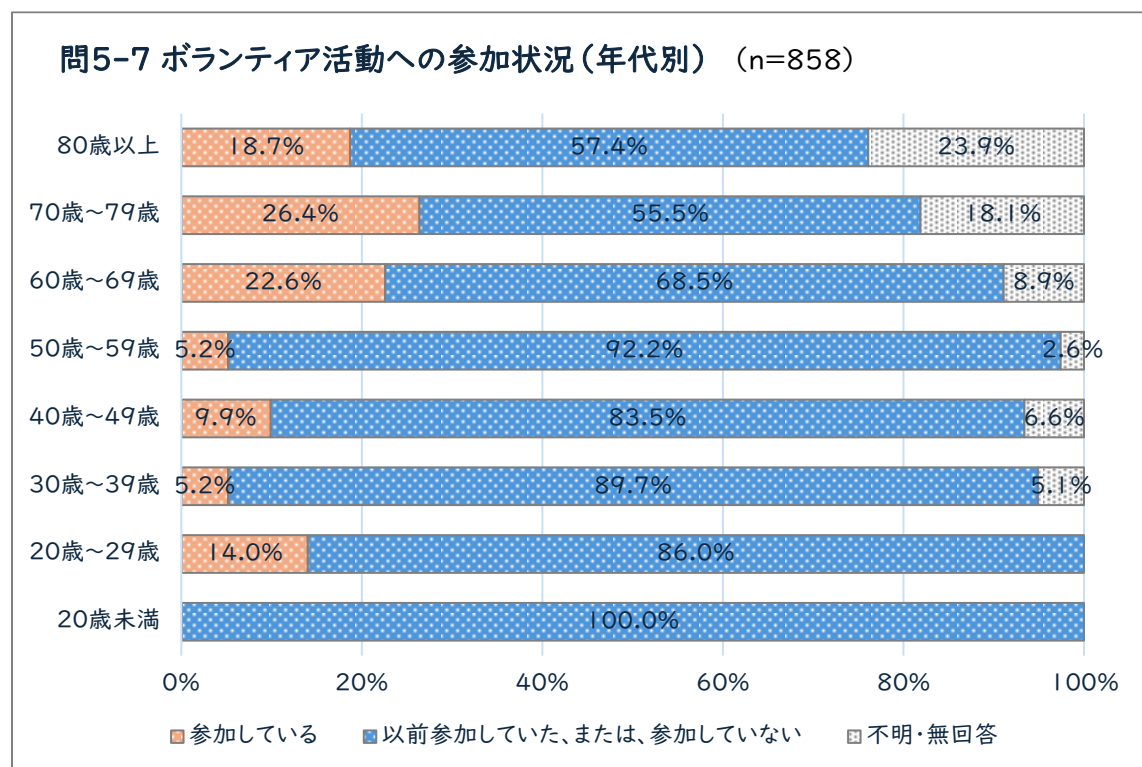
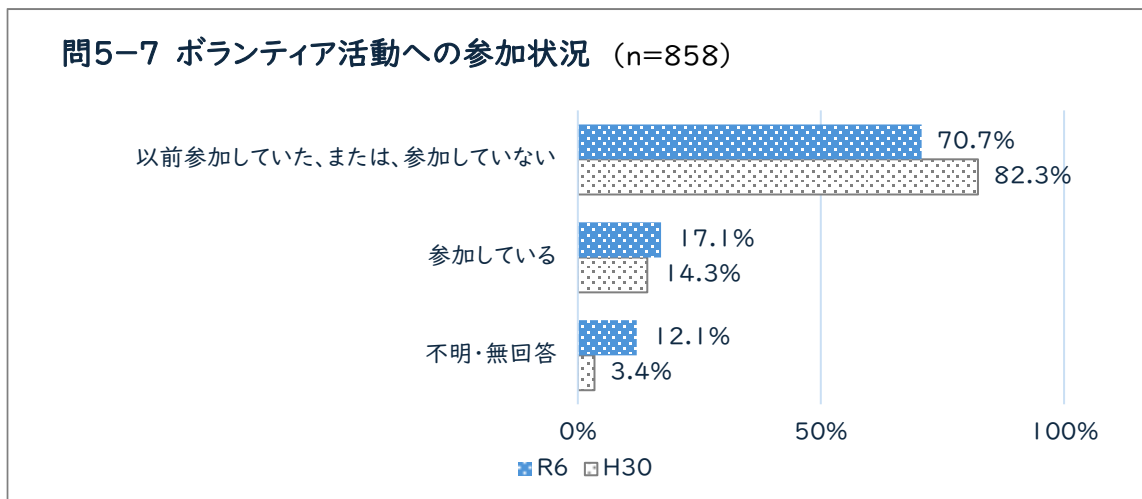
6 地域活動の課題について

地域活動の課題については、「高齢者世帯が増えている」70.3%が最も高く、次いで「子どもが減っている」54.8%で、少子高齢化が課題と感じている人が多くなっています。また、「自治会への未加入世帯が増えている」も26.1%で、前回同様に課題の上位となっています。



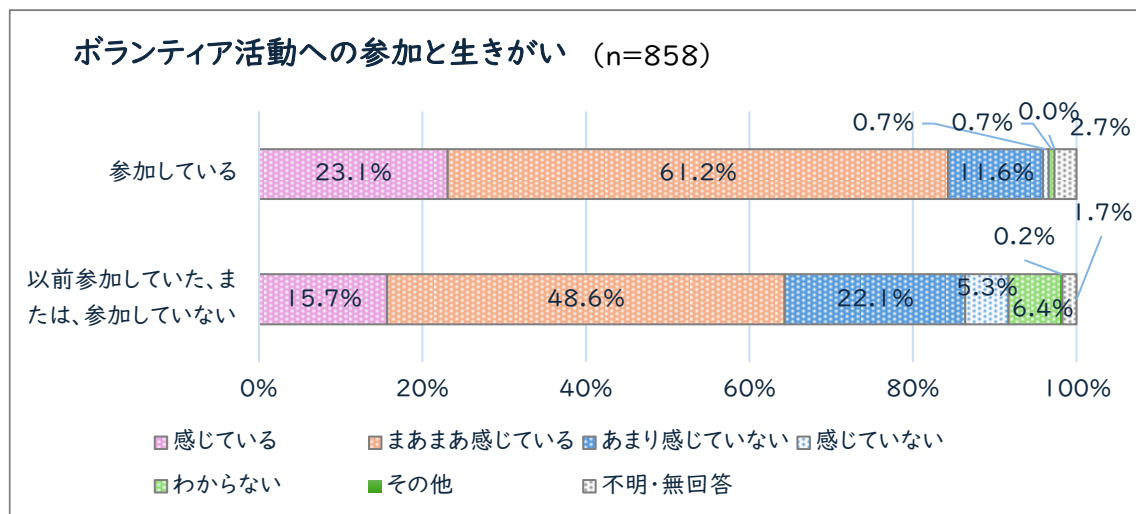
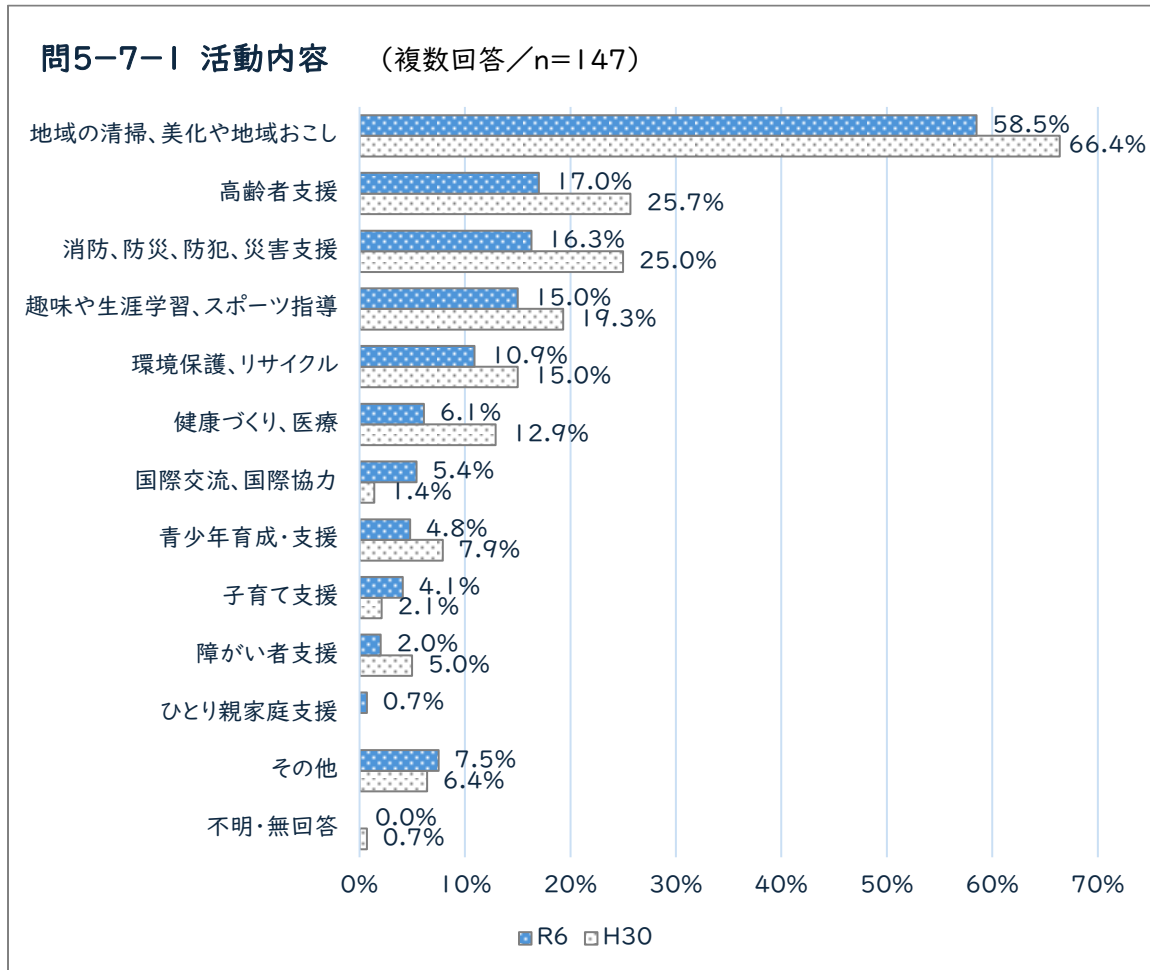
7 ボランティア活動への参加状況について

ボランティア活動への参加状況については、「以前参加していた、または、参加したことがない」70.7%、「参加している」17.1%となっており、前回との比較では、若干ではありますが、「参加している」方の割合が高くなっています。また、年代別では、20歳代で一定の割合であるものの、30歳代から50歳代では1割を切っており、60歳以降の割合が高くなっています。



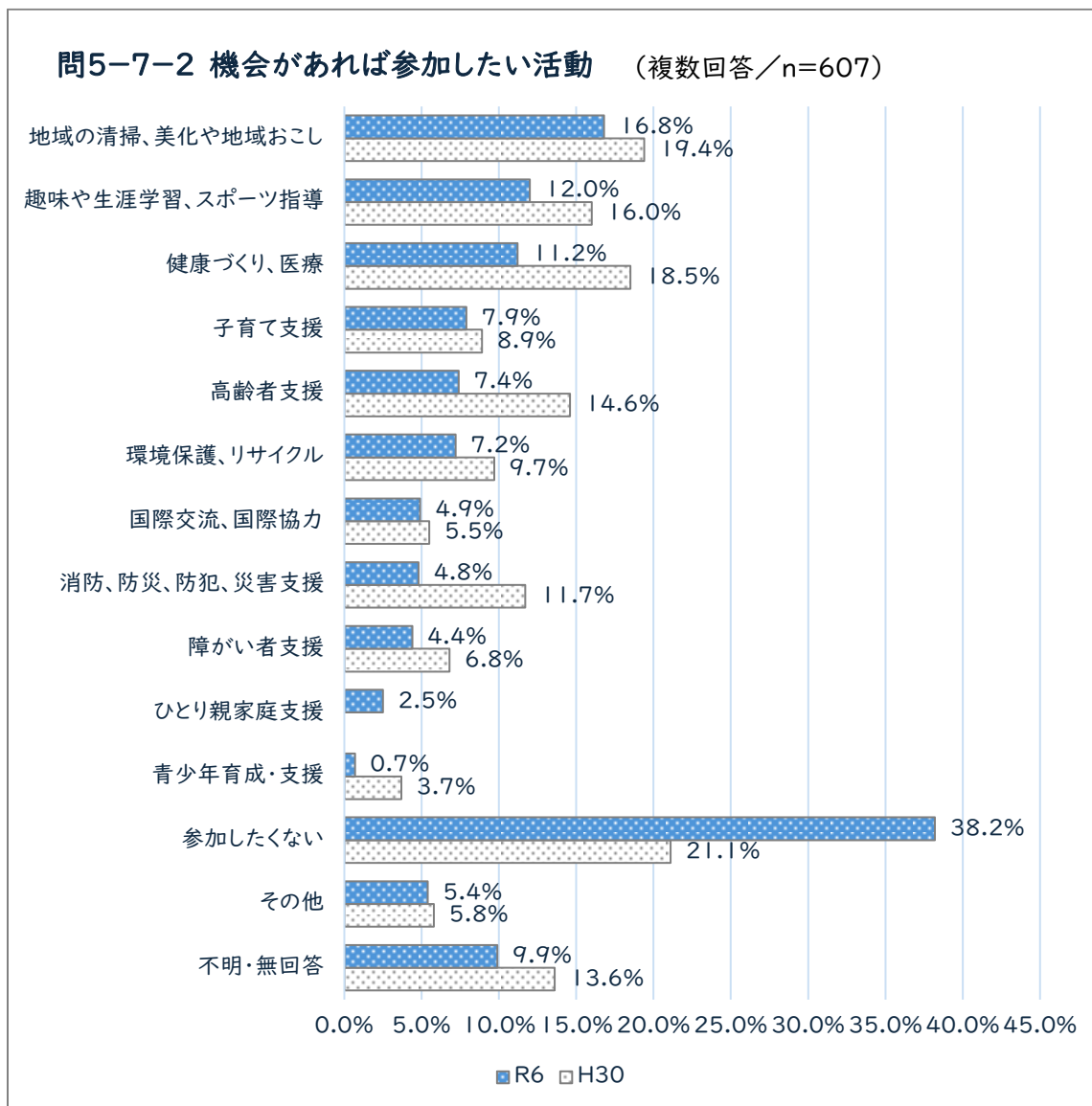
7-1 どのようなボランティア活動に参加しているかについて

活動内容については、「地域の清掃、美化や地域おこし」58.5%が最も高く、次いで「高齢者支援」17.0%、「消防、防災、防犯、災害支援」16.3%となっています。また、活動への参加の有無と「喜びや生きがい」との相関では、活動に参加されているの方が、喜びや生きがいを感じる方が圧倒的に多く高い割合になっています。



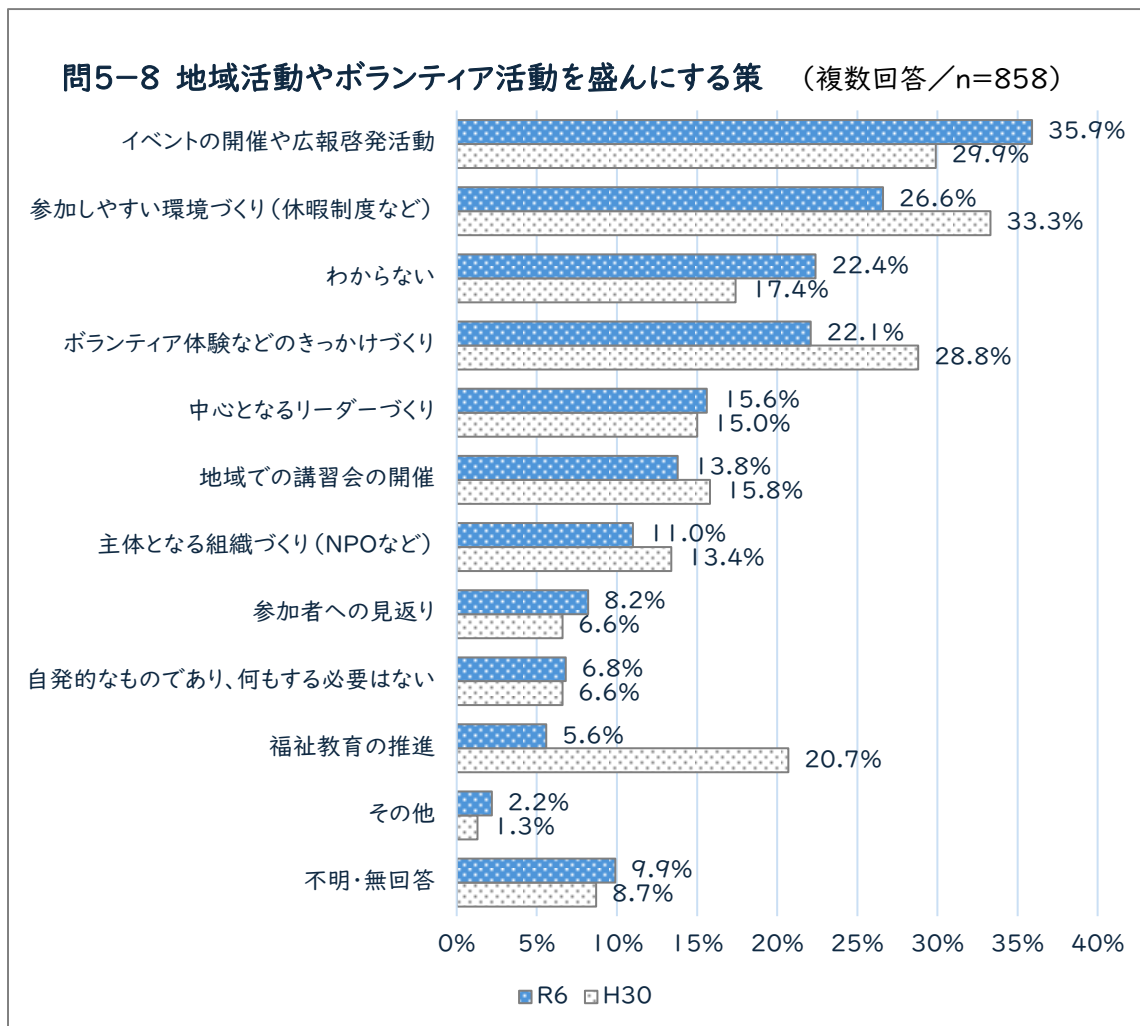
7-2 機会があれば参加したいと思うボランティア活動について

機会があれば参加したいと思うボランティア活動については、「参加したくない」38.2%が最も高く、次いで「地域の清掃、美化や地域おこし」16.8%、「趣味や生涯学習、スポーツ指導」12.0%となっています。前回との比較で、「参加したくない」が17.1ポイント高くなっており、ボランティア活動への意欲が低くなっていることがわかります。



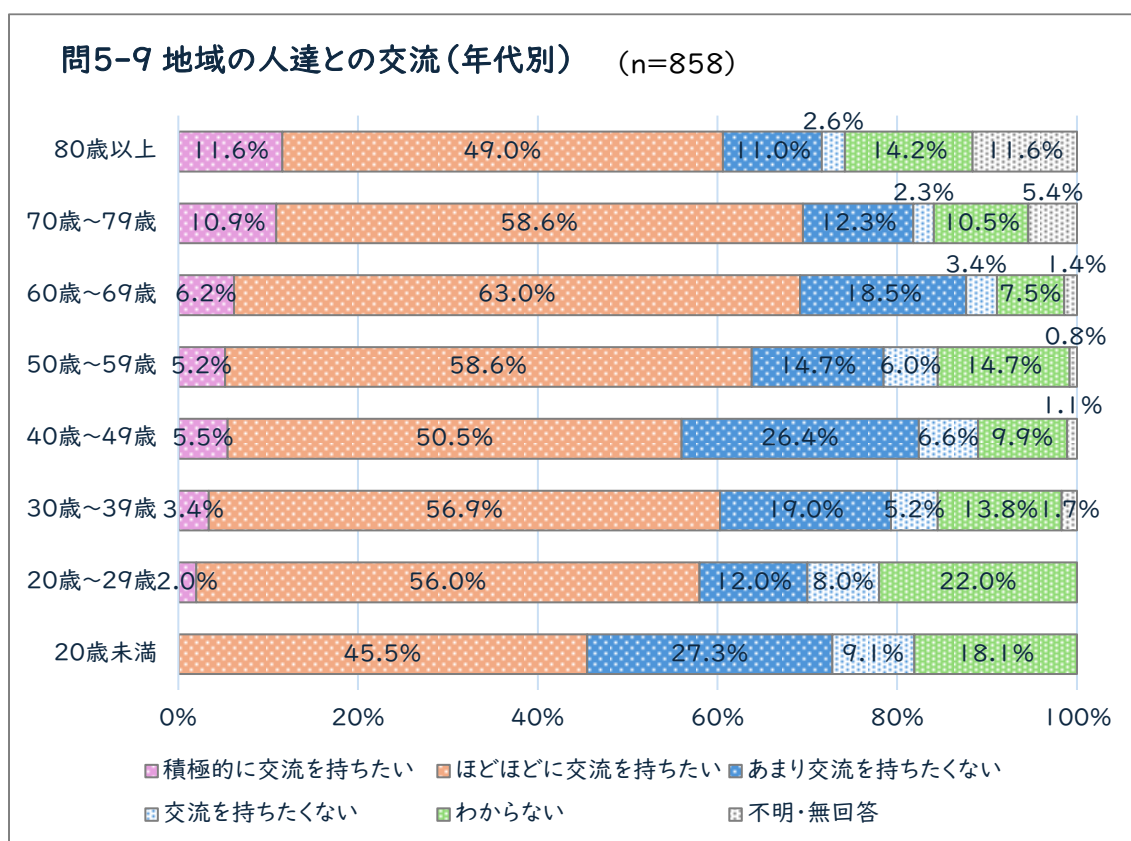
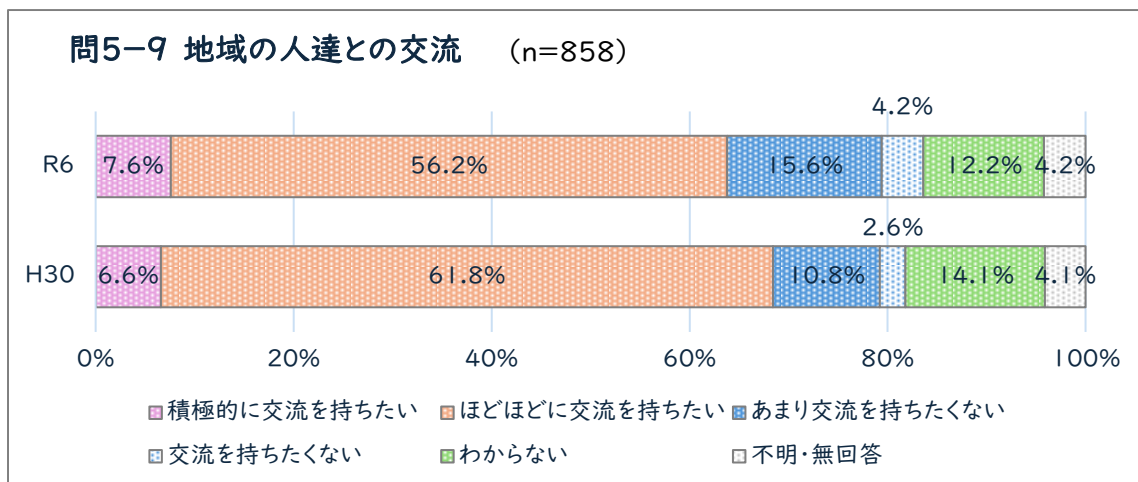
8 地域活動やボランティア活動を盛んにするために効果的な策について

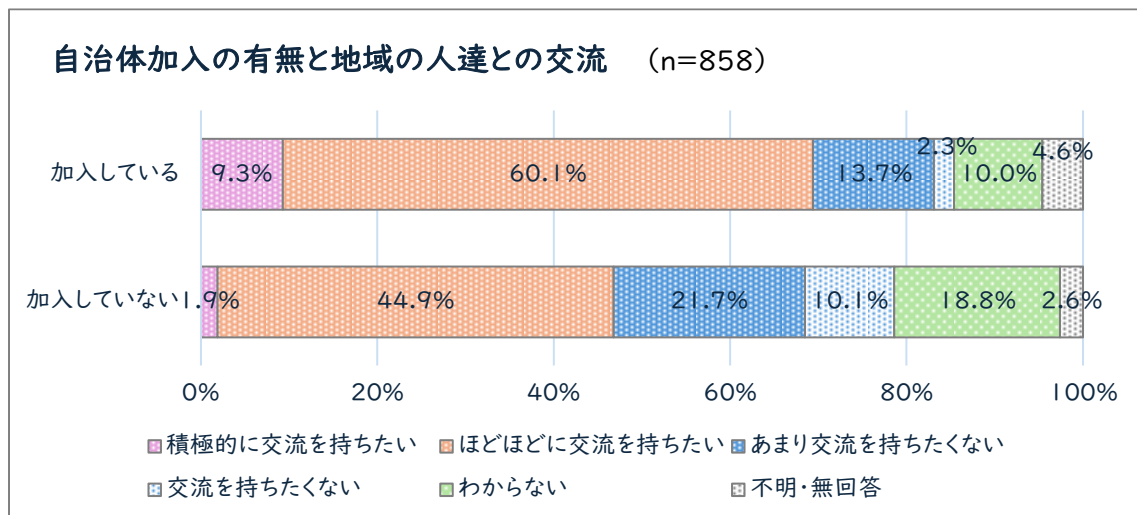
地域活動やボランティア活動を盛んにするために効果的な策については、「イベントの開催や広報啓発活動」35.9%が最も高い。「参加しやすい環境づくり（休暇制度など）」26.6%、「ボランティア体験などのきっかけづくり」22.1%など、活動に参加するための体制整備が必要との回答が多くなっています。



9 地域の人達との交流について

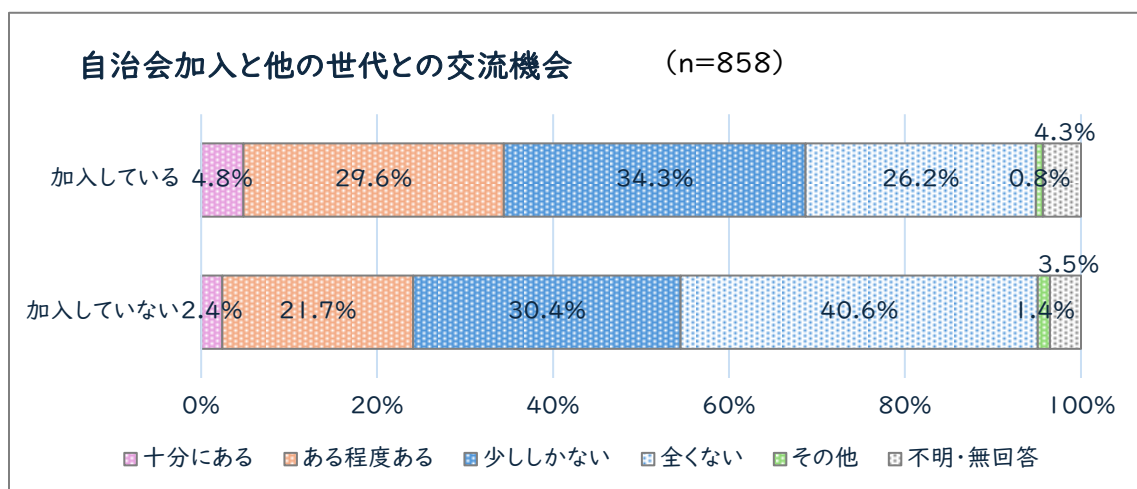
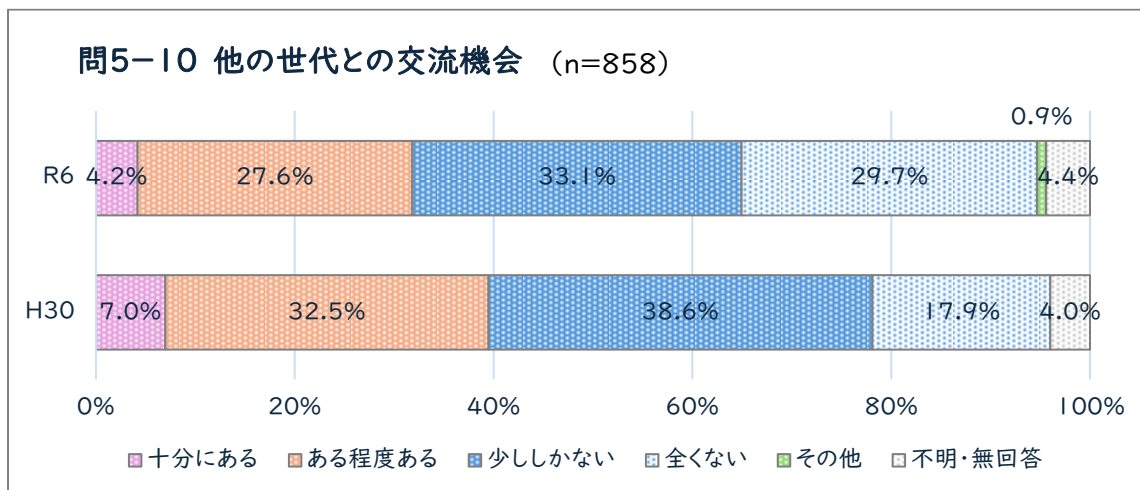
地域の人達との交流については、「ほどほどに交流を持ちたい」56.2%が最も高くなっています。また、年代別では、若年層になればなるほど交流を敬遠する傾向が見られます。さらに、自治会加入の相関では、加入の有無で交流への意識が大きく違うことが分かります。





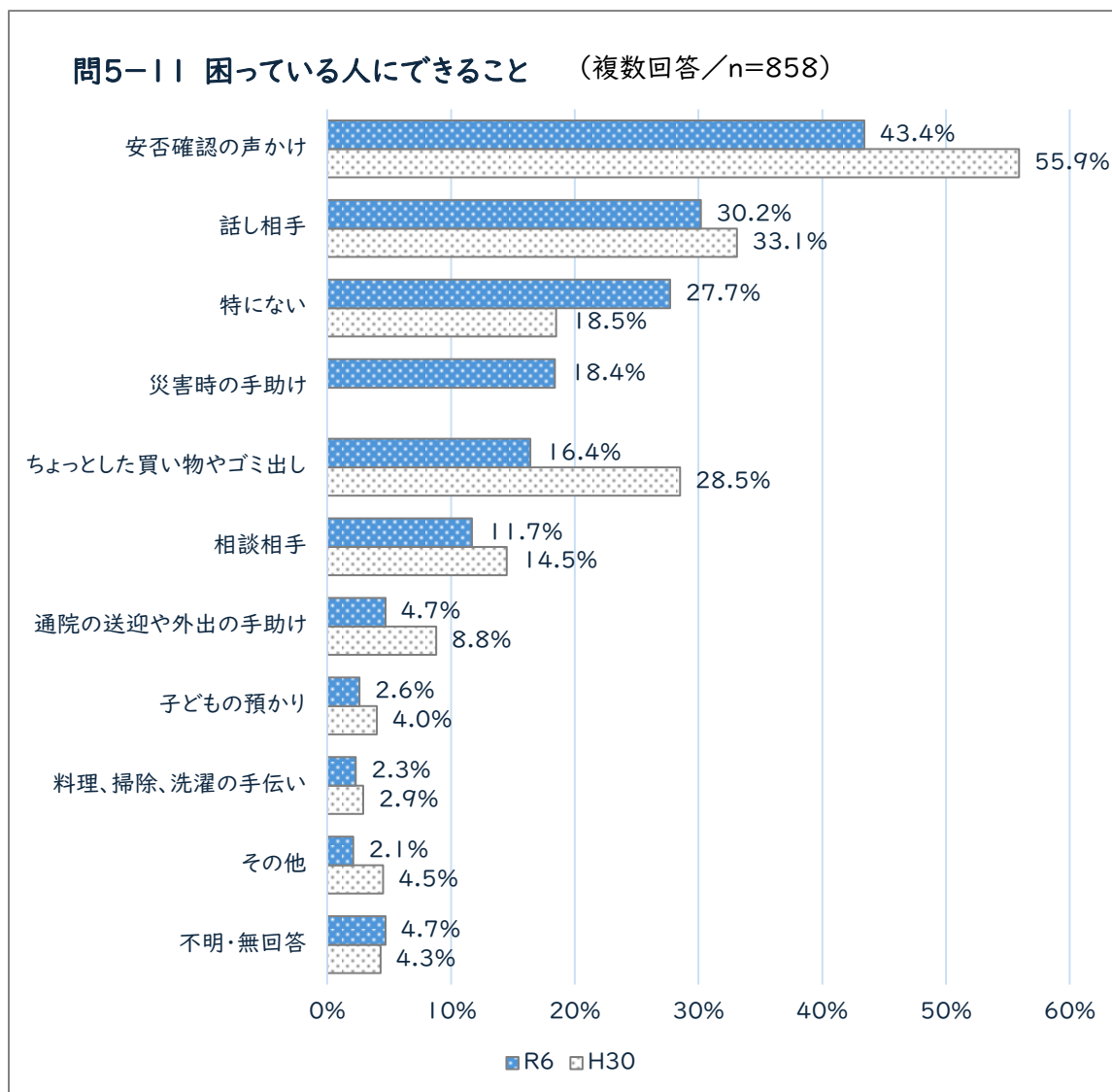
10 他の世代との交流機会について

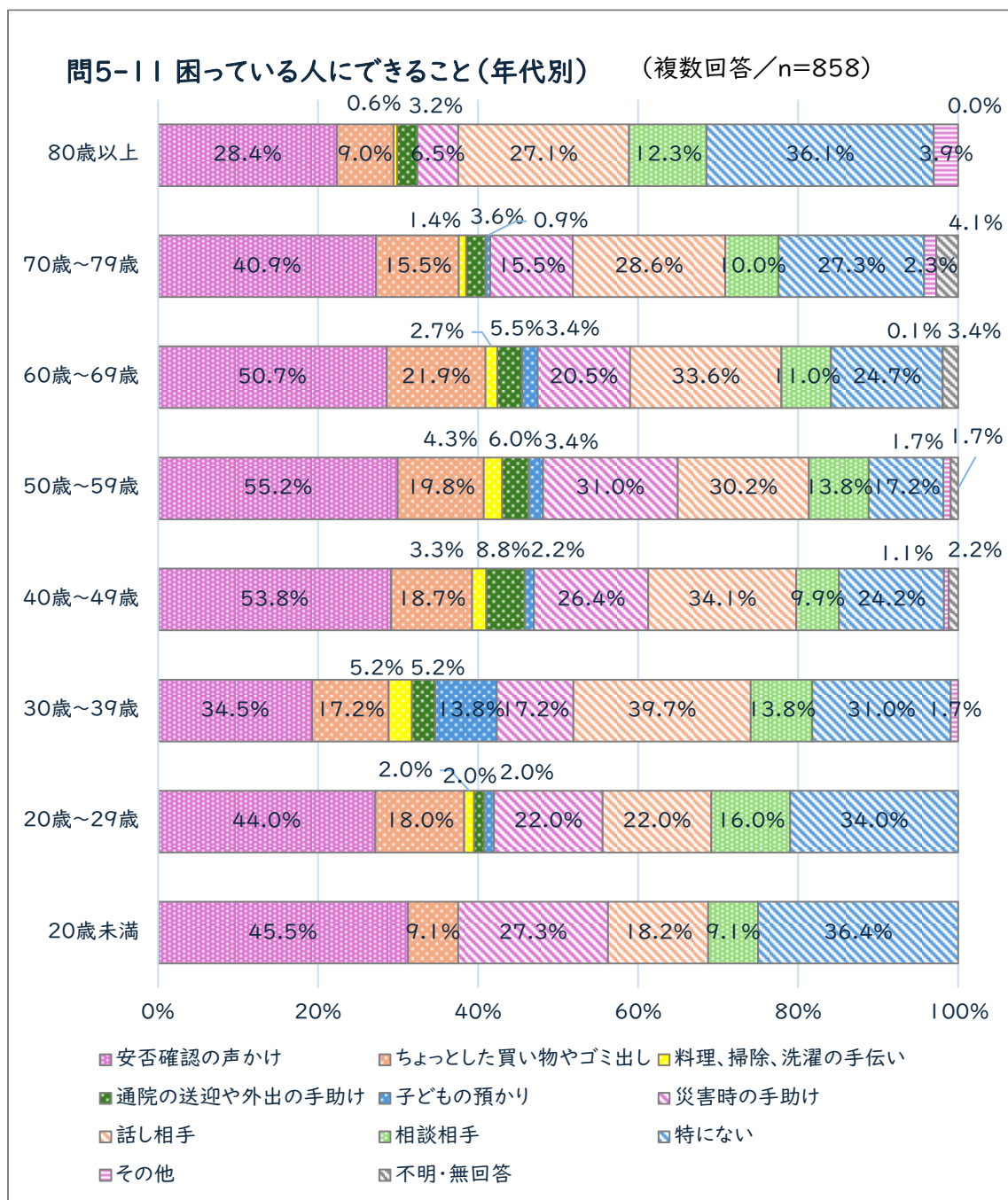
他の世代との交流機会については、「十分にある」4.2%、「ある程度ある」27.6%となっており、前回との比較で、計7.7ポイント低くなっています。また、自治会加入との相関では、加入の有無によって、交流機会の頻度にも大きな差が出ています。



1.1 困っている人に、あなたができることについて

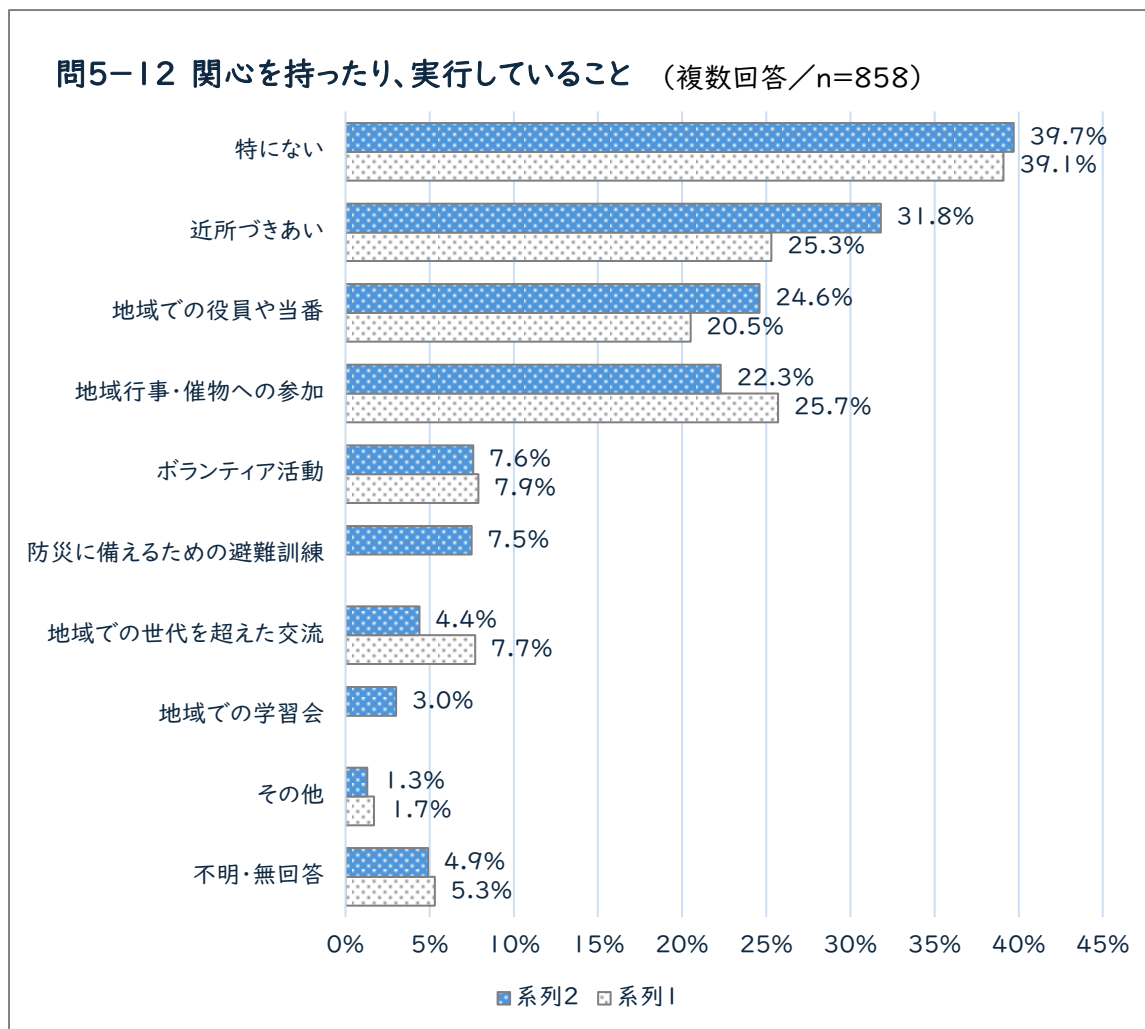
困っている人に、できることについては、「安否確認の声かけ」43.4%が最も高く、次いで「話し相手」30.2%となっています。また、今回より「災害時の手助け」の項目を設けたところ、高い割合を示しています。また、年代別では、30代の方が「子どもの預かり」で他の世代よりも高い割合になっており、60代の方は、偏りが少なく平均的な割合になっています。なお、今回より「災害時の手助け」を新たに加えており、18.4%と比較的高い割合になっています。





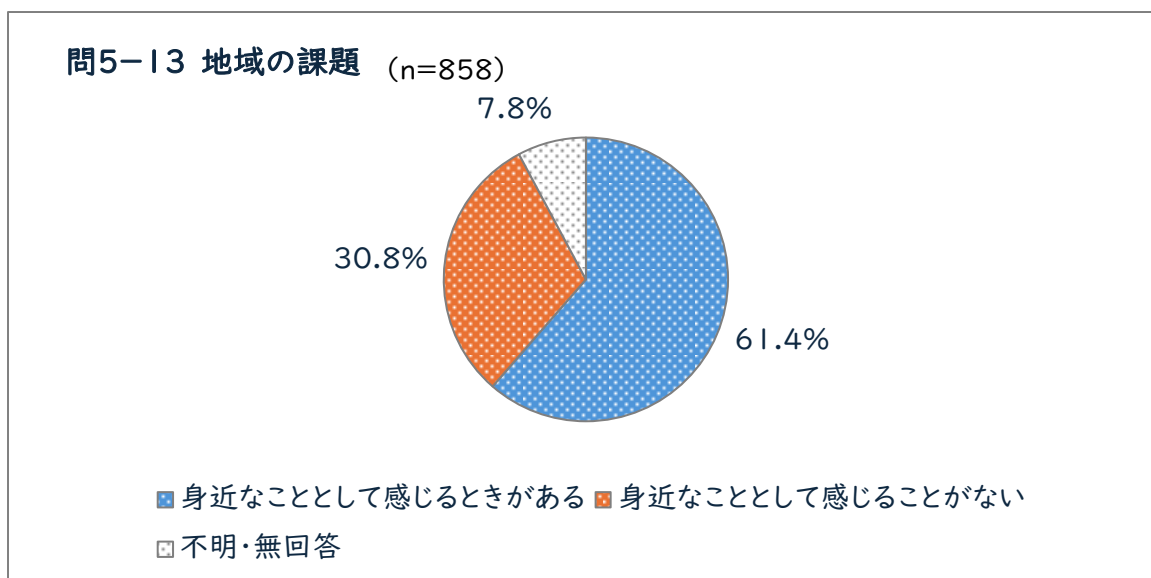
1 2 地域において関心を持ったり、実行したりしていることについて

地域において関心を持ったり、実行したりしていることについては、「近所づきあい」31.8%が最も高く、次いで「地域での役員や当番」24.6%となっていますが、「特にない」が39.7%と前回に引き続き、非常に高くなっています。なお、今回より「災害に備えるための避難訓練」と「地域での学習会」を新たに加えています。



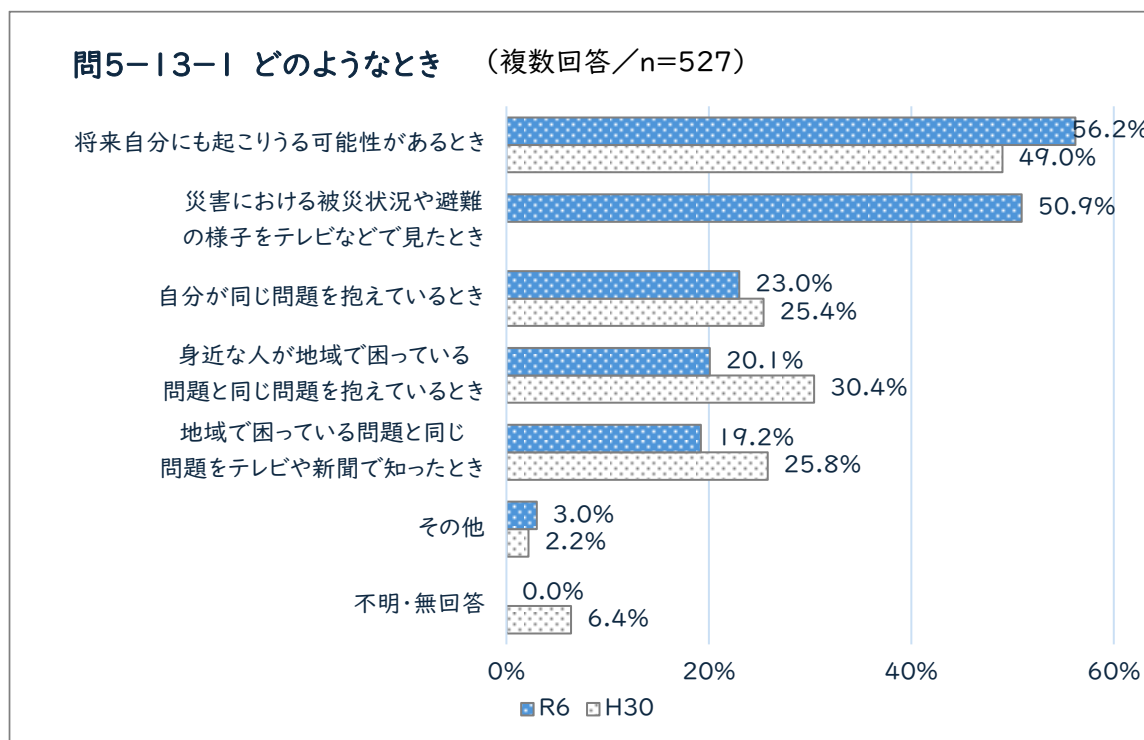
1 3 地域の課題について

地域の課題については、「身近なこととして感じるときがある」と答えた方が 61.4%、「身近なこととして感じることはない」と答えた方が 30.8%となっています。



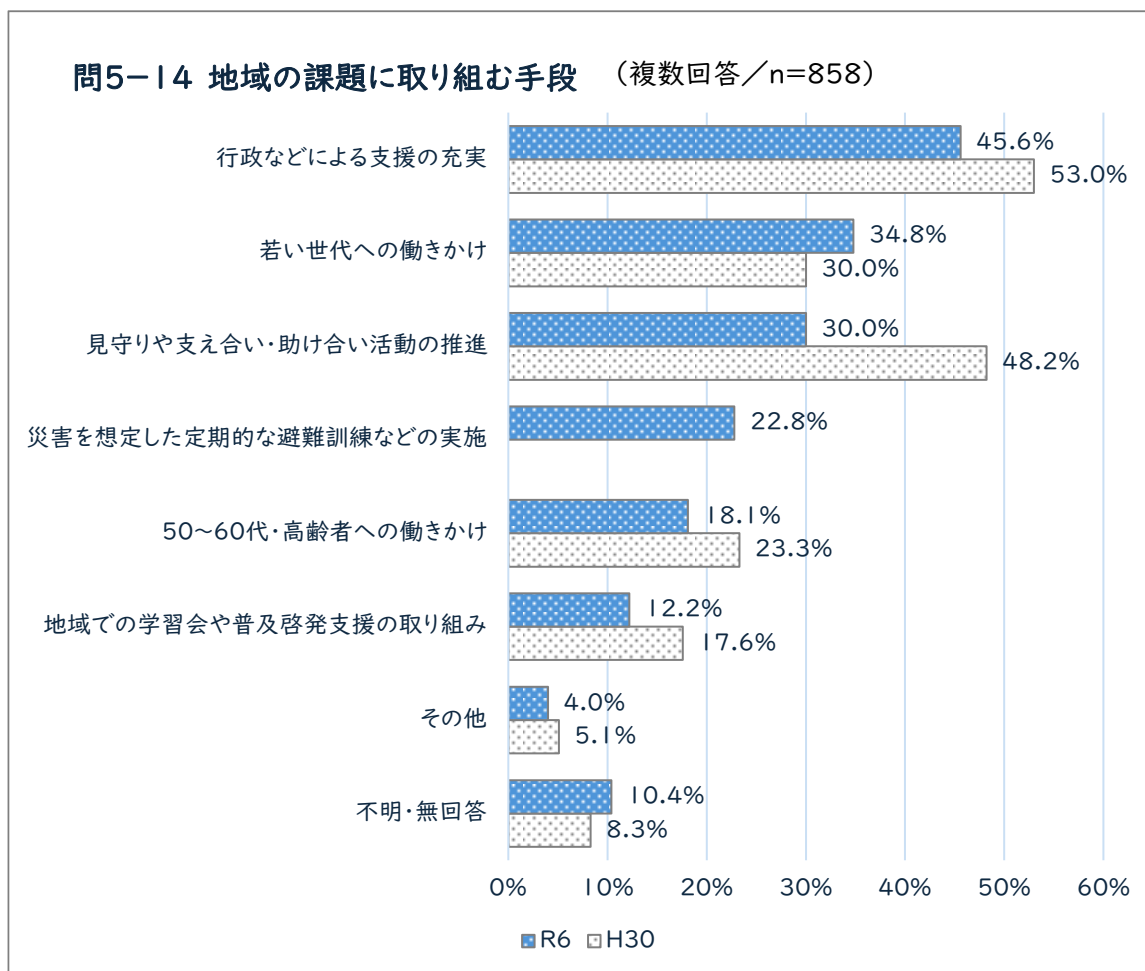
1 3-1 地域の課題を身近なこととして感じるときについて

地域の課題を「身近なこととして感じるとき」については、「将来自分にも起こりうる可能性があるとき」56.2%が最も高く、次いで「災害における被災状況や避難の様子をテレビなどで見たとき」50.9%、「自分が同じ問題を抱えているとき」23.0%となっています。なお、今回より「災害における被災状況や避難の様子をテレビなどで見たとき」を新たに加えておりますが、非常に高い割合になっています。



1 4 地域の課題を身近な事として取り組むために必要な手段について

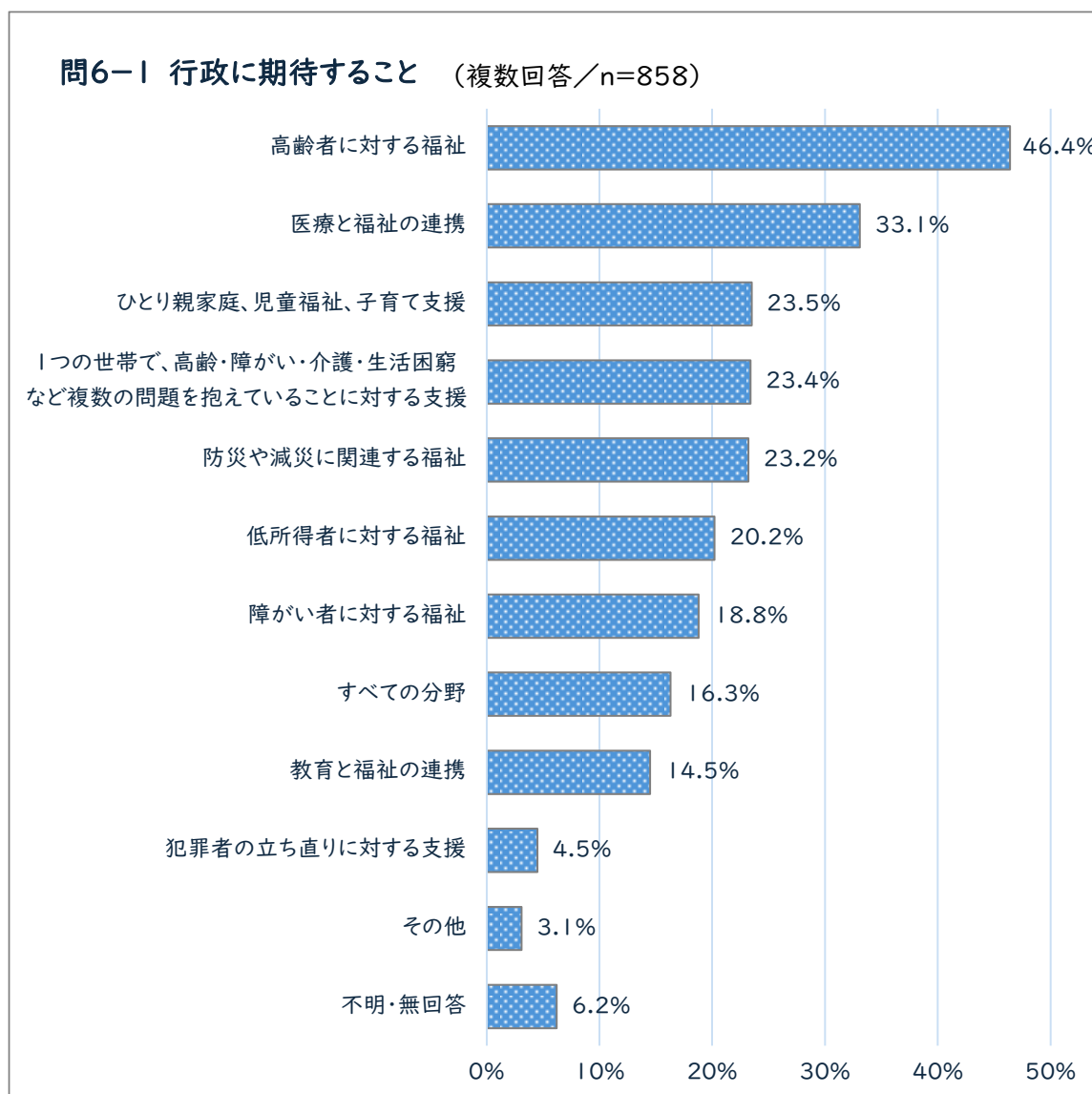
地域の課題を身近な事として取り組むために必要な手段については、「行政などによる支援の充実」45.6%が最も高く、次いで「若い世代への働きかけ」34.8%、「見守りや支え合い・助け合い活動の推進」30.0%となっています。なお、今回より「災害を想定した定期的な避難訓練などの実施」を新たに加えましたが、22.8%と比較的高い割合になっています。



問6 「福祉サービス」について

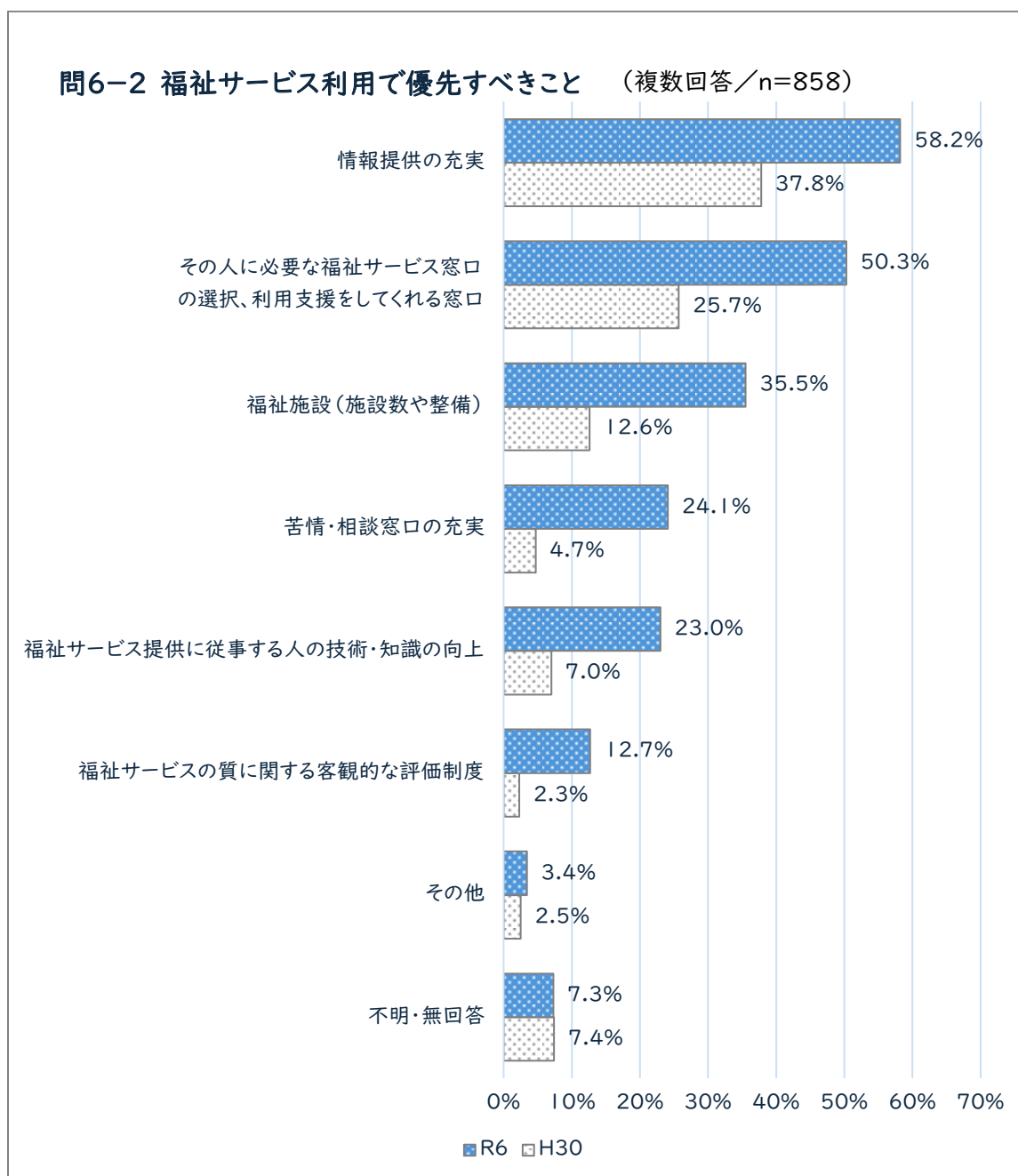
1 行政（国、県、市）に期待することについて

行政（国、県、市）に期待することについては、「高齢者に対する福祉」46.4%が最も高く、次いで「医療と福祉の連携」33.1%、「ひとり親家庭、児童福祉、子育て支援」23.5%となっています。



2 援助を必要とする人が、適切に福祉サービスを利用できるよう優先すべきことについて

援助を必要とする人が、適切に福祉サービスを利用できるよう優先すべきことについては、「情報提供の充実」58.2%が最も高く、次いで「その人に必要な福祉サービス窓口の選択、利用支援をしてくれる窓口」50.3%、「福祉施設（施設数や整備）」35.5%となっています。

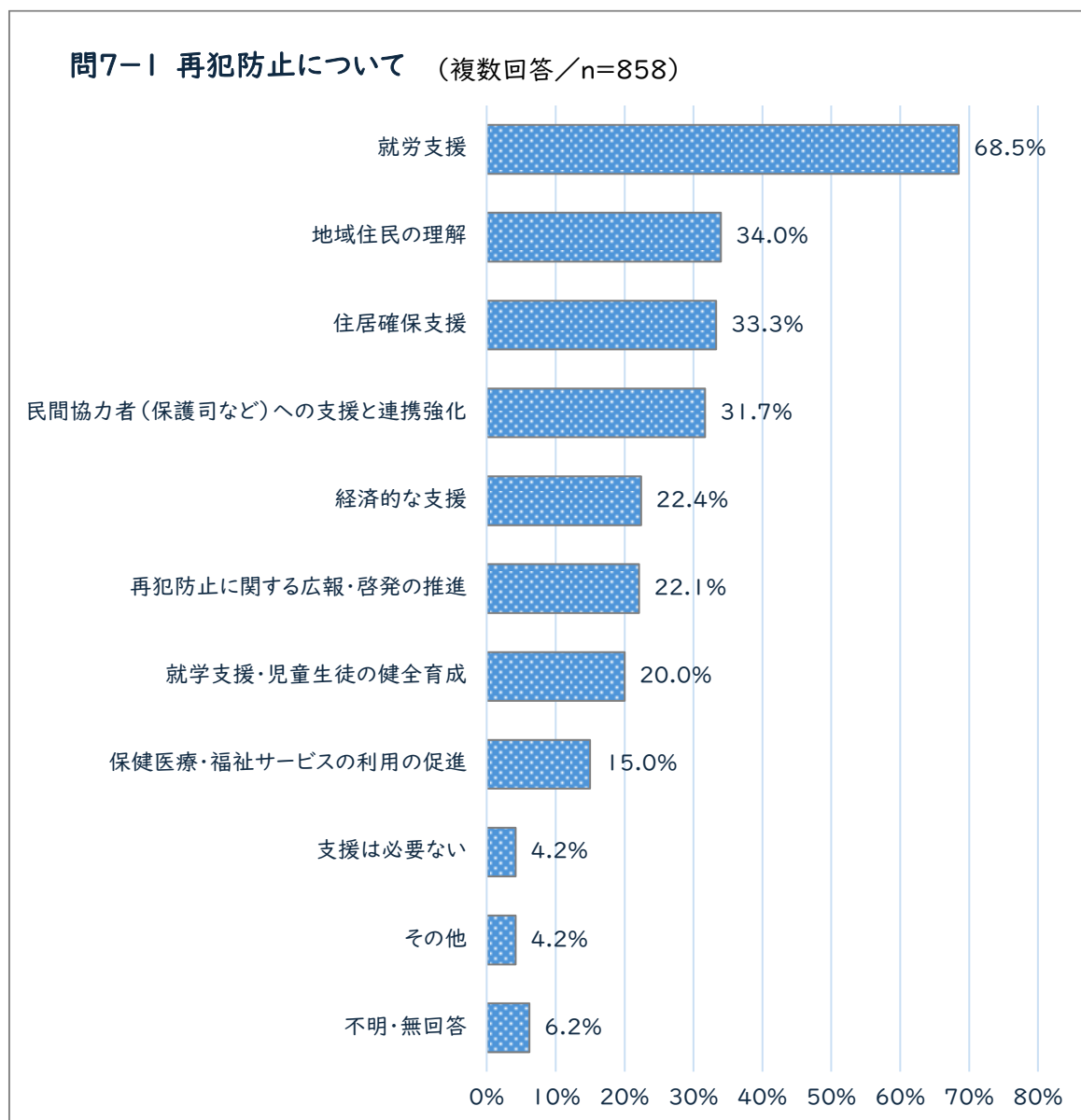


※H30 と R6 の%の広がり、R6 が複数回答となったためです。

問7 「地域における再犯防止」について

1 再犯防止のために必要だと思うことについて

再犯防止のために必要だと思うことについては、「就労支援」68.5%が最も高く、次いで「地域住民の理解」34.0%、「住居確保支援」33.3%となっています。



問8 「これからの地域づくり」について

1 みんなで助け合うあたたかい地域社会の実現に向けて、住民が取り組むべきことについて

住民が取り組むべきことについては、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」49.2%が最も高く、次いで「自治会などの地域組織が住民の身近な暮らしや、健康・安全・防犯などの問題に取り組む」32.5%、「他の世代との交流を広げる」29.1%となっています。なお、今回より、新たに「他の世代との交流を広げる」を加えており、29.1%と3番目に高い割合になっています。

